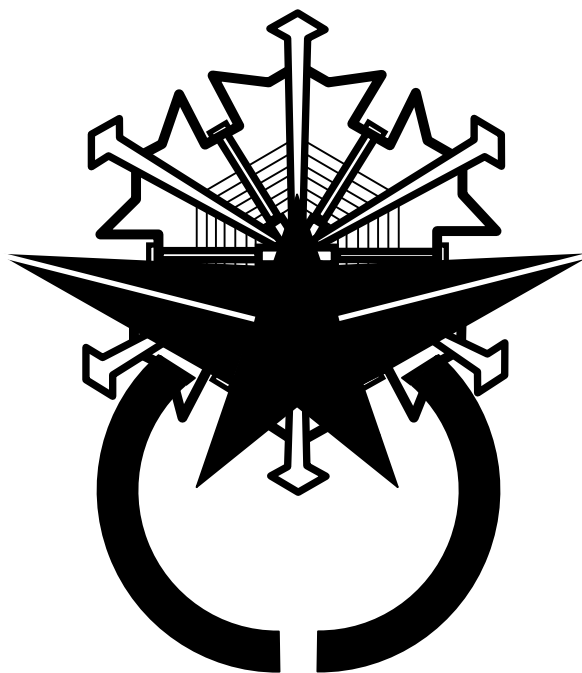


平成20年度版

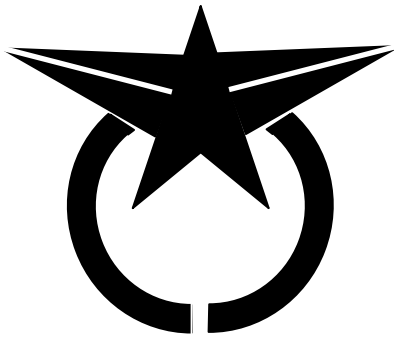
消防年報



赤平市消防本部

平成21年刊行

■ 市 章



頭文字「赤」を図案化し、その左右に開く両端で将来飛躍発展の市勢を表し、外円は市民の和（輪）向上団結を示し、明日に躍動する赤平市を描いたもの。

（昭和41年12月 2日制定）

■ 「虹の映えるまち・赤平」

シンボルマーク



青は赤平市のイニシャル「A」と雄大な山を表し、下方の3本線は中央に流れる空知川で赤平の自然景観を表現しました。

左の円形「虹」は未来への希望の架け橋、心と心の希望の架け橋を表し、将来に向けて赤平市の活躍、発展を描いたものです。

（平成 2年 4月 1日制定）

■ 市民憲章

わたくしたちは、空知川にはぐくまれ石炭によって発展した赤平の市民です。この郷土に誇りと責任をもち、より豊かなより美しいまちをきずくため、この憲章を定めます。

1. いたわりと笑顔をまちにひろめましょう。
1. よく学びつくり出す芽をそだてましょう。
1. きれいな花と緑でまちをつつみましょう。
1. たくましいはたらく力をのばしましょう。
1. みんなで語りみんなのまちをつくりましょう。

（昭和49年 7月31日制定）

は し が き

- 1 この年報は、平成20年当市の消防現況及び消防行政執行状況並びに火災、救急統計を収録したもので、今後の消防行政推進の参考に資するとともに、当市の消防事情を紹介するため編集したものであります。
- 2 この年報は、特記したものを除き、平成21年4月1日現在で集録したものであります。

平成21年 7月

赤平市消防本部

目 次

市 勢・沿 革

市勢・・・・・・・・・・・・・・・・	1
消防機関配置図・・・・・・・・	1
沿革・・・・・・・・・・・・・・・・	2

消防機構・予 算・職 団 員

歴代消防長・・・・・・・・・・	13
歴代消防団長・・・・・・・・・・	13
叙位・叙勲受章者名簿・・・・	14
消防庁長官表彰受章者名簿・・・・	14
消防本部（署）組織図・・・・	15
消防庁舎の概要・・・・・・・・	15
一般会計と消防費（当初予算）の比較・・	16
消防費の人口・世帯別状況・・・・	16
消防現有力の人口・世帯・面積別状況・・	16
消防職員階級別配置・・・・・・・・	17
消防職員教育状況・・・・・・・・	17
消防職員の特殊技能資格・・・・	18
救急隊員資格内訳・・・・・・・・	18
年齢区分別階級別消防職員数・・・・	19
消防職員階級別勤続年数・・・・	19
年齢区分別階級別消防団員数・・・・	19
消防団員階級別勤続年数・・・・	19
消防団組織図・・・・・・・・・・	20
消防団員階級別配置・・・・・・・・	20
過去5年間の分団別出勤率・・・・	20

消防施設

通信施設の状況・・・・・・・・・・	21
消防車両現勢・・・・・・・・・・	21
消防水利の状況・・・・・・・・・・	21
主な消防用資機材等保有状況・・・・	22

予 防・危険物

防火管理者の選任及び消防計画届出状況・	23
月別各種届出状況・・・・・・・・・・	24
用途及び工事別建築同意事務処理状況・・	25

危険物施設の現況・・・・・・・・・・	25
危険物施設の許可数量・・・・・・・・・・	26
防火・広報活動月別実施状況・・・・・・・・	27
防火協力団体・・・・・・・・・・	28

火災統計

火災の概要・・・・・・・・・・	29
平成20年火災記録・・・・・・・・・・	30
月別及び曜日別火災件数・・・・・・・・	31
時間別及び季節別火災件数・・・・・・・・	32
過去10年間の出火原因別火災件数・・・・	33
過去10年間の火災状況・・・・・・・・・・	34
過去の主な火災・・・・・・・・・・	35

消防活動

出勤状況・・・・・・・・・・	36
月別出勤状況・・・・・・・・・・	36
過去5年間の出勤状況・・・・・・・・・・	36
事故種別発生場所別救助出勤状況・・・・	37
事故種別月別救助出勤件数・・・・・・・・	37
赤平市家庭用緊急通報システム及び シルバーハウジング緊急通報概要図・・・・	38
家庭用緊急通報システム受信状況・・・・	39
家庭用緊急通報システム出勤状況・・・・	39
シルバーハウジング緊急通報受信状況・・・・	39
シルバーハウジング緊急通報出勤状況・・・・	39

救急統計

事故種別月別救急出場件数・・・・・・・・	40
管外搬送出場件数・・・・・・・・・・	40
時間別救急出場件数・・・・・・・・・・	40
年齢区分別搬送人員数・・・・・・・・・・	41
傷病程度別搬送人員数・・・・・・・・・・	41
過去10年間の救急出場件数・・・・・・・・	41

気象統計

平成20年各別気象参考記録・・・・・・・・	42
過去10年間の気象参考記録・・・・・・・・	43

市
沿

勢
革



市 勢

地 勢

赤平市は、北海道のほぼ中央にあって、市域の南及び北の大部分は山岳地帯である。

市の中央部を東西に空知川、国道３８号線、ＪＲ北海道根室本線が走り、これを軸として帯状に長く市街地及び密集地を形成している。

面積と広ぼう

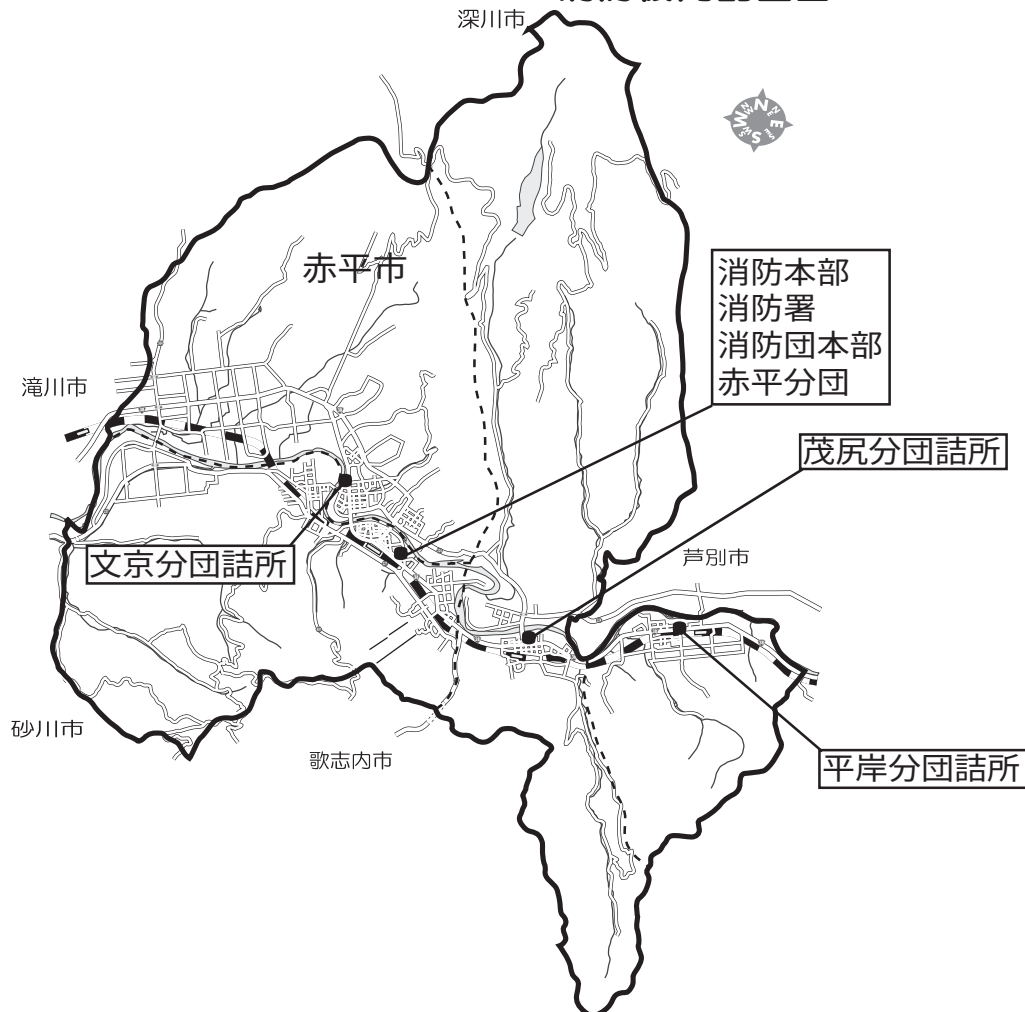
面 積	広 ば う	
	東 西	南 北
	14.090 km	18.501 km

人口及び世帯

人 口			世 帯 数
計	男	女	
13,258 人	6,105 人	7,153 人	6,983 世帯

(人口、世帯数は、平成 21 年 3 月 31 日現在)

消防機関配置図



赤平市の位置



実線は、赤平市境界線
破線は、分団管轄区域

沿 革

明治35年	4月	上赤平（現赤平地区）に火の見櫓建立、組員30名をもって上赤平消防組が創立される。
大正	5年10月	上平岸（現平岸地区）に上平岸私設消防組が創立され、組頭に今井時次郎氏就任 上平岸私設消防組に梅野炭鋺より、半天、股引、頭巾の寄贈を受ける。
	6年	上赤平に上赤平火災予防組合が創立され、火の見櫓に半鐘を取付ける。 下平岸（現茂尻市街地区）に下平岸私設消防組合が創立される。
	7年	上平岸私設消防組に梅野炭鋺より、ドイツ型1号腕用ポンプ1台の寄贈を受ける。
10年	2月	上赤平火災予防組合、ドイツ型2号腕用ポンプ1台を購入し、配備
	6月	上赤平に私設上赤平消防組が創立される。
	10月	茂尻炭鋺に茂尻火防組合が創立され、ドイツ型2号腕用ポンプ1台を購入し、配備
11年	4月	歌志内村より分村、赤平村として独立
	6月	公認赤平村消防組が認許
	9月	消防組を上赤平（現赤平地区）を1部、下平岸（現茂尻地区）を2部、上平岸（現平岸地区）を3部の3部制とし、初代組頭に細野謙氏が就任。組織は組頭1名、部長3名、小頭6名、消防手96名の合計106名。装備はドイツ型1号腕用ポンプ各1台を配備
12年	6月	第1回赤平村消防組合連合消防演習举行
	11月	消防組1部で警鐘を購入し、火の見櫓に取付ける。
14年	5月	5月14日から6月3日まで下平岸（現茂尻地区）で山火事が発生し、消防組連日出動し消火に当る。
	12月	赤平村公有林火災で消火に尽力した功績により、北海道庁拓殖部長より消防組が表彰状を受ける。
昭和	2年	消防組2部、火の見櫓を建立し、警鐘を取付ける。 茂尻市街部落全員で千曲川より幅3尺の防火用水路を5条から元町まで設置
昭和	3年5月	北海道庁警察部長より各部に金馬簾1条の使用認許を受ける。6月24日に金馬簾伝達式举行
	4年5月	幌岡自警団創立される。
	6年	消防組2部（茂尻）で手引ガソリンポンプを購入し、配備
	9年	消防組2部（茂尻）に駒沢久太郎氏より手引ガソリンポンプ1台と2吋ホース20本の寄贈を受ける。
	6月	消防組1部、火の見櫓を建替える。
10年	9月	茂尻炭鋺に私設義勇消防隊が組織される。
11年		豊里昭和肥料KKで自衛消防班を組織、その後防護団に組織変えを行う。
	8月	消防組3部、平岸169番地に機械器具置場と団員集会所を新築
	9月	天皇行幸のため消防組が警備に当る。
12年	5月	赤平村消防組後援会創立される。
13年	8月	赤間炭鋺に私設消防隊が創立され、2区世話所横に火の見櫓、機械器具置場を新築し、手引腕用ポンプを購入し、配備
14年	4月	警防団の発令により赤平村消防組を赤平村警防団と組織替え7分団制とする。住友炭鋺を第1分団、赤平市街を第2分団、東海豊里炭鋺を第3分団、茂尻市街を第4分団、雄別茂尻炭鋺を第5分団、平安市街を第6分団、北炭赤間炭鋺を第7分団とする。 初代警防団長 河崎八郎氏 就任 団員319名
15年	9月	第2分団で泉町に木造2階建望楼付機械器具置場を新築
16年	1月	住友炭鋺に私設消防組（第1分団と併存）が創立され、腕用ポンプ1台、消火栓90基配備し、木造火の見櫓建立
	4月	1937年式消防車を1台購入し、第2分団に配備
	5月	5月26日、豊里炭鋺住宅より火災。49戸が焼失
18年	2月	町制施行により、赤平町警防団と改名する。
19年	10月	10月3日、豊里炭鋺住宅火災。14棟120戸が焼失。罹災者550人、焼失面積3,511㎡、損害額120千円

21年	3月	第2分団に常備員（機関員）1名を配置
21年	7月	豊里炭鉱に私設消防組（第3分団と併存）が創立され、手引ガソリンポンプ1台、消火栓35基、貯水池2を配備
	7月	赤平町警防団後援会創立される。
	8月	雄別茂尻炭鉱に私設保安消防隊創立される。
	10月	第2分団に常備員1名増員、常備員2名体制となる。
22年	2月	第4分団で茂尻元町に機械器具置場を新築。木造火の見櫓建立
	10月	1947年式消防車を購入し、第4分団に配備。常備員1名を配置
23年	3月	消防組織法の施行により警防団が廃止。自治体消防として赤平町消防団を設置、1団、7分団とする。
		初代消防団長 望月松雄氏 就任 団員344名
	6月	第1分団で団員詰所と鉄骨製火の見櫓を建設。消防車を購入し、配備
	6月	1948年式消防車1台を第2分団に増強。第6分団に第4分団よりガソリンポンプ1台を移管する。
24年	2月	1940年式トラックを購入しガソリンポンプを積載、第6分団に配備
	4月	4月25日、雄別茂尻炭鉱選炭機火災。焼失面積2,093㎡、損害額200,000千円
25年	1月	第3分団、機械器具置場を新築。1950年式消防車（水槽付）を購入し、配備
	9月	第2分団3名、第4分団3名、第6分団1名、合計7名の常備員を配置
	9月	9月14日、百戸渡舟場において転覆事故発生。第4分団が出動し遭難者11名、馬4頭を救出する。
	11月	11月19日、赤平町役場庁舎議事堂より出火、1棟全焼、1棟半焼。焼失面積約200坪、損害額5,000千円
	12月	12月9日、赤平市街（現本町）でマーケットから出火し、18棟31世帯を焼失。罹災者105名
26年	4月	共和自警団創立される。
	10月	1947年式トラックを購入し、消防車に改造して第7分団に配備
27年	9月	第6分団、団員詰所に団員召集用モーターサイレンを設置
	10月	開町30周年記念行事として、赤平町消防団創立30周年記念式典並びに記念連合演習举行
	12月	1945年式消防車を購入し、第1分団に配備
28年	2月	2月10日、平岸木工場から出火し、工場兼住宅1棟446㎡を焼失。損害額1,840千円
	7月	1954年式消防車を購入し、第2分団に配備。昭和16年購入の消防車を老朽のため廃車とする。
	7月	分団一斉指令電話を設置
29年	4月	第2分団3名、第4分団2名、第6分団1名、合計6名の常備員を配置
	4月	4月16日、赤平市街（現本町）で飲食店から出火し、17棟54世帯を焼失。焼失面積2,011㎡、損害額25,101千円
	7月	市制施行により、赤平市消防団となる。市制施行記念連合消防演習举行
30年	1月	緊急電話「火事」「消防」となる。
	7月	水道給水開始、赤平地区に消火栓40基設置
	7月	北海道消防協会滝川地方支部連合消防演習举行
31年		茂尻地区に消火栓20基設置
	1月	1月19日、平岸木工場から出火し、工場及び住宅3棟を焼失。焼失面積881㎡、損害額6,300千円
	8月	1956年式消防車を購入し、第6分団に配備。1940年式消防車を老朽のため廃車とする。
	9月	9月27日、赤平市街（現本町）でデパートから出火し、6棟26世帯が焼失。焼失面積1,327㎡、損害額37,284千円
32年	3月	赤平市消防団条例改正により団員定数300名となる。
	7月	1957年式消防車1台を第4分団に、1957年式消防車1台を第5分団に購入し、配備
33年	4月	第2分団8名、第4分団2名、第6分団2名、合計12名の常備員を配置
	8月	1958年式消防車（水槽、放水塔付）を購入し、第2分団に配備
34年	10月	第2分団10名、第4分団2名、第6分団3名、合計15名の常備員を配置

35年	9月	1960年式消防車を購入し、第3分団に配備。昭和25年購入の1950年式消防車（水槽付）を老朽のため廃車とする。
36年	2月	消防専用無線電話購入、基地局を第2分団に設置、移動局2局を第2分団と第6分団の消防車に積載配備
	4月	赤平市消防団条例改正により団員定数250名となる。
	4月	赤平市職員定数条例改正により消防職員定数32名となる。
	5月	赤平市消防本部設置。初代消防長 望月松雄氏（前消防団長） 就任 事務職員1名、市役所より出向。15名の常備員と合わせ17名の職員配置
	5月	第2代消防団長 佐々木金太郎氏 就任
	6月	字赤平452番地（現大町1丁目5番地）に消防本部庁舎新築落成
	6月	消防職員13名増員し、30名体制となる。
	6月	消防本部庁舎落成式挙行政
	7月	消防本部発足記念全市連合消防演習挙行政
	7月	7月25日、26日、集中豪雨による被害発生。被害戸数506戸、損害額197,868千円。災害救助法適用となる。
12月		赤平市消防署設置。茂尻、平岸を分遣所とする。消防署長は消防長兼務、消防本部兼務職員22名、茂尻分遣所4名、平岸分遣所3名を配置
37年	6月	住吉自警団創立される。
	8月	8月3日、4日、台風9号による被害発生。被害戸数881戸、損害額914,198千円。災害救助法適用となる。
38年	3月	第7分団解団、消防車を市に移管し第2分団に配備。管轄区域を第2分団の管轄とする。
	7月	救助艇を購入し、消防署に配備
	8月	第5分団解団、消防車を市に移管し第4分団に配備。管轄区域を第4分団の管轄とする。
	8月	第5分団解団により、茂尻炭鉱自衛消防団が創立される。
	8月	8月25日、集中豪雨による被害発生。被害戸数709戸、損害額84,800千円
	9月	赤平市消防団条例改正により団員定数200名となる。
39年	1月	第3代消防団長 中川精作氏 就任
	2月	1964年式消防ポンプ自動車（水槽付）を購入し、消防署に配備
	6月	豊里少年消防クラブ創立される。
	8月	赤平開基75周年及び市制施行10周年記念赤平市連合演習挙行政。消防職員3名増員、37名体制となる。
	10月	茂尻少年消防クラブ創立される。
40年	3月	第2分団、昭和38年第7分団より移管の1947年型消防車を老朽のため廃車とする。
	4月	第2代消防長 松本秀男氏 就任
	6月	赤平市消防団を1団7分団制から1団5分団制とし、第1分団を住友分団、第2分団を赤平分団、第3分団を豊里分団、第4分団を茂尻分団、第6分団を平岸分団とする。
	6月	平岸少年消防クラブ創立される。
	7月	北海道消防協会滝川地方支部9ヶ市町消防連合演習挙行政
	8月	赤平少年消防クラブ創立される。
	10月	日本損害保険協会より1965年式消防車の寄贈を受け、損保号と命名し、消防署に配備
	11月	赤平市危険物安全協会創立される。
41年	1月	赤平市火災出動区分を制定。出動区分を第1種、第2種とする。
	4月	1963年式ライトバンを購入し、指令車として消防本部に配備
	5月	消防本部発足5周年記念全市連合消防演習挙行政
	7月	桎屋根解消融資制度を実施。申し込み30件、30棟が改修される。
	8月	北海道防災演習が滝川市において開催され、消防署、赤平分団が参加
	9月	赤平市防火管理者協会創立される。
	9月	赤平市消防団条例改正により団員定数160名となる。
	9月	豊里炭鉱より1960年式消防車が市に移管される。
42年	4月	赤平市職員定数条例改正により消防職員定数45名となる。
	6月	豊里炭鉱閉山により豊里分団（炭鉱分団）解団

	7月	豊里分団（市街分団）発足。職員1名増員、44名体制となる。昭和41年豊里炭鉱より移管の1960年式消防車を豊里分団に配備
43年	2月	赤平市消防団が日本消防協会より竿頭綬を受賞する。
	3月	自治体消防制度20周年記念式典において、消防本部、消防団が消防庁長官より竿頭綬を受賞する。
	6月	字豊里（現西文京町4丁目1番地）に豊里分遣所庁舎新築落成。消防署豊里分遣所を発足し、職員1名を配置
	6月	消防署の一部機構改革により茂尻分遣所を茂尻出張所とする。茂尻元町（現中央町北1丁目3番地）に茂尻出張所庁舎新築落成
	6月	茂尻出張所落成記念全市連合演習挙行
	9月	救急業務実施義務市の政令指定により、救急隊編成に伴う消防機構の一部改正を行う。
	9月	天皇、皇后両陛下御臨席のもと開催された開道100年記念第20回全道消防大会（旭川市）に参加
	12月	1968年式救急車（国消A級）を購入し、消防署に配備。12月10日より救急業務の運用を開始する。
44年	6月	消防本部庁舎増築工事落成（車庫63㎡、仮眠室、分団室63㎡、計126㎡を増築）
	12月	1969年式消防ポンプ自動車（水槽付）を購入し、消防署に配備。昭和39年購入の1964年式消防ポンプ自動車（水槽付）を茂尻出張所に配備替
	12月	昭和38年第5分団から茂尻分団に移管の1957年式消防車を消防署に配備替
	12月	可搬動力ポンプを購入し、赤平分団に配備
45年	2月	消防専用無線を超短波無線機に切替、基地局1基、移動局8基を設置
	4月	赤平市職員定数条例改正により消防職員定数46名となる。職員数46名
	7月	住友赤平砒消防団（住友分団併設）が解団し、住友分団（公設分団一本化）となる。
	7月	市議会総務委員会が、消防行政事務調査のため施設の視察を実施
	8月	住友炭鉱より消防車2台が市に移管され、住友分団に配置。消防署住友分遣所を発足し、職員1名を配置
	8月	平岸少年消防クラブが、赤平市青少年問題協議会より青少年善行表彰を受ける。
	10月	昭和45年5月20日から昭和45年10月18日まで150日間無火災連続記録樹立
	10月	1970年式消防車を購入し、住友分団に配備。昭和45年7月に住友炭鉱より移管の消防車を老朽のため廃車とする。
	11月	1970年式無線指令車を購入し、消防本部に配備。昭和41年購入の1963年式指令車を老朽のため廃車とする。
	11月	北海道定例表彰式において、赤平市消防団が北海道知事より竿頭綬を受賞する。
46年	2月	北文京町緑ヶ丘団地 渡辺富子、得能茂光の両氏に一般市民消防協力者（消火協力）として消防長感謝状を贈呈する。
	2月	赤平市消防団が優良消防団として日本消防協会より表彰旗を受賞する。
	4月	赤平市職員定数条例改正により消防職員定数48名となる。職員数46名
	11月	消防署の一部機構改革として、茂尻出張所を強化し、茂尻、平岸、百戸地区を管轄する拠点とする。
	11月	平岸分遣所庁舎老朽により字平岸125番地（現新光町2丁目4番地）に庁舎を新築し移転する。
47年	5月	赤平ライオンズクラブより1972年式広報車の寄贈を受け、消防本部に配備
	7月	元消防司令長 望月松雄氏 正七位 勲五等瑞宝章を受章する。
	8月	赤平分団、昭和28年購入の1954年式消防車を老朽のため廃車とする。
	8月	赤平、茂尻、豊里、平岸少年消防クラブが赤平市消防長より感謝状の表彰を受ける。
	11月	赤平市消防団条例改正により団員定数130名となる。
	12月	1972年式普通ポンプ自動車を購入し、赤平分団に配備
48年	4月	赤平市職員定数条例改正により消防職員定数51名となる。職員数46名
	4月	赤平石油燃焼機器整備業協会創立される。
	8月	昭和45年に住友炭鉱から移管の消防車を老朽のため廃車とする。
49年	2月	1974年式消防ポンプ自動車を購入し、赤平分団に配備。昭和47年購入の1972年式消

		防ポンプ自動車を平岸分団に配備替
49年	2月	平岸分団、昭和31年購入の1956年式消防車を老朽のため廃車とする。
	4月	元副団長 小林弘氏 勲六等単光旭日章を受章する。
	7月	消防署、昭和44年茂尻分団より移管の1957年式消防車を老朽のため廃車とする。
12月		1974年式消防ポンプ自動車を購入し、茂尻分団に配備
50年	4月	赤平市職員定数条例改正により消防職員定数52名となる。職員数52名
	4月	元班長 小倉吉蔵氏 勲七等瑞宝章を受章する。
	6月	第2代消防長 松本秀男氏 助役就任。消防長事務取扱となる。
	7月	北海道消防協会中空知支部連合消防演習举行
	8月	日本損害保険協会より1975年式普通消防ポンプ自動車の寄贈を受け、消防署に配備
	8月	昭和40年日本損害保険協会より寄贈の1965年式消防車を予備車として茂尻出張所に配置替
	8月	8月23日、24日、台風6号による被害発生。被害戸数226戸、損害額220,406千円
	9月	昭和43年購入の1968年式救急車を福祉事務所に配置替
	9月	茂尻分団、昭和32年購入の1957年式消防車を老朽のため廃車とする。
	9月	9月6日から8日まで豪雨による水害発生。被害戸数75戸、損害額32,310千円
11月		北海道共済農業協同組合連合会より1975年式救急車の寄贈を受け、消防署に配備
11月		1975年式化学車を購入し、消防署に配備
12月		昭和44年購入の1969年式消防ポンプ自動車（水槽付）を消防署から赤平分団に配備替
12月		赤平分団、昭和33年購入の1958年式消防車（水槽、放水塔付）を老朽のため廃車とする。
51年	4月	元分団長 午角伝吉氏 勲七等瑞宝章を受賞する。
	6月	泉町、西文京町に水防用排水ポンプを各1基設置
	6月	平岸、茂尻少年消防クラブが北海道消防協会より優良少年消防クラブの表彰を受ける。
	9月	平岸141番地 江村幸治氏に一般市民消防協力者（消火協力）として消防長感謝状を贈呈する。
	11月	1976年式指令車を購入し、消防本部に配備。昭和45年購入の1970年式指令車を老朽のため廃車とする。
52年	1月	字茂尻133番地 株式会社北斗石油に一般市民消防協力者（消火協力）として消防長感謝状を贈呈する。
	6月	赤平、文京少年消防クラブが北海道消防協会より優良少年消防クラブの表彰を受ける。
	8月	字茂尻129番地 株式会社大賀クロージングに一般市民消防協力者（消火協力）として消防長感謝状を贈呈する。
	10月	消防本部庁舎増築工事落成（待機室、浴室、トイレ、ボイラー室、分団室、事務室、仮眠室）
	11月	第3代消防長 逢坂春政氏 就任
	11月	機構改革により課制を導入、消防本部2課4係、消防署1署、1出張所、3分遣所となる。
	11月	1977年式普通ポンプ自動車を購入し、豊里分団に配備。昭和41年豊里炭鉱より移管の1960年式消防車を老朽のため廃車とする。
	12月	消防救急指令装置、救急医療情報収集装置を導入し、本部通信指令室に設置
53年	3月	山之内製薬より1978年式救急車の寄贈を受け、消防署に配備
	4月	急病テレホンセンターを開設し、医療情報照会業務を開始する。
	4月	元分団長 安原信治氏 勲七等青色桐葉章を受賞する。
	12月	総合気象観測装置を導入し、消防本部に設置
54年	1月	赤平市消防団条例改正により副部長制を廃止。部長2名体制とする。
	1月	若木町西1丁目 光生食品工業株式会社に一般市民消防協力者として消防長感謝状を贈呈する。
	8月	救助艇（トレーラー付）を購入。エルム号と命名し、消防署に配備。昭和38年購入の救助艇を老朽のため廃艇とする。
	9月	消防署一部機構改革により、1署2係、1出張所、3分遣所となる。
	9月	消防関係規程の整備を実施

11月	1979年式消防ポンプ自動車（水槽付）を購入し、茂尻出張所に配備。昭和44年消防署より移管の1964年式消防車（水槽付）を老朽のため廃車とする。
11月	昭和54年6月29日から昭和54年11月21日まで146日間無火災連続記録樹立
55年 1月	第4代消防団長 菊島節男氏 就任
1月	平岸少年消防クラブが赤平市青少年問題協議会より青少年善行表彰を受ける。
8月	昭和57年4月1日の消防法施行令一部改正に伴い、全職員対象に救急隊員資格付与講習会を12月18日まで実施
12月	消防無線整備（基地局1基、移動局20基、無線受令機4基）
56年 4月	赤平石油燃焼器具整備業協会を赤平燃焼機器整備業協会と名称変更する。
6月	全国消防長会北海道支部予防事務研究会を開催
7月	消防職員の階級に消防副士長を新設
8月	滝川市緑町4丁目 矢元勇治氏に一般市民消防協力者（人命救助）として消防長感謝状を贈呈する。
8月	字豊里165番地 菅原智恵子、幸子、深雪の三氏に一般市民消防協力者（消火協力）として消防長感謝状を贈呈する。
8月	8月3日から8月6日まで台風12号による被害発生。被害戸数338戸、損害額3,281,569千円
9月	西文京町3丁目 猪爪政光、政徳、西文京町1丁目 斉藤幸二の三氏に一般市民消防協力者（水防協力）として消防長感謝状を贈呈する。
10月	全消防団員に新制服を貸与
57年 4月	豊里分団、豊里分遣所を文京分団、文京分遣所に名称変更する。
6月	昭和56年11月18日から昭和57年6月25日まで220日間無火災連続記録樹立
7月	第4代消防長 岩淵兼夫氏 就任
8月	特殊消防対策車を購入し、消防署に配備
8月	消防機械器具倉庫を文京分遣所裏に新築
8月	北海道消防操法訓練大会に赤平分団がポンプ車操法の部に参加
9月	赤平市消防創立60周年記念式典並びに記念連合演習举行
10月	昭和40年日本消防協会より寄贈の1965年式消防車を老朽のため廃車とする。
58年 1月	赤平市消防団団旗を新規に制作し、入魂式を実施
2月	赤平燃焼機器整備業協会10周年記念式典举行
9月	消防用特殊作業車を購入し、消防署茂尻出張所に配備
10月	第5代消防長 仁田力夫氏 就任
59年 5月	機構改革により課制を廃止し、係に主幹（消防司令）を配置
7月	全国消防長会北海道支部道央地区協議会警防事務研究会を開催
9月	日本消防協会より1984年式広報車の寄贈を受け、消防本部に配備。昭和47年ライオンズクラブより寄贈の1972年式広報車を老朽のため廃車とする。
12月	4週5休制、試行開始
12月	1984年式小型動力ポンプ付大型水槽車を購入し、消防署に配備
12月	昭和44年購入の1969年式消防車（水槽付）を老朽のためロータリークラブを通してフィリピンへ寄贈する。
60年 4月	消防団の定員区分改正により副団長2人制とする。
7月	北海道消防協会中空知支部連合消防演習举行
11月	赤平市危険物安全協会創立20周年記念式典举行
11月	東文京町に水防用排水機場を落成
61年 4月	元団長 中川精作氏 勲五等瑞宝章を受賞する。
5月	消防吏員の階級改正により消防長の階級が消防監となる。
8月	機構改革により主任（消防士長）を配置
9月	赤平市防火管理者協会創立20周年記念式典举行
62年 4月	機構改革により主任を廃止、主査（消防司令補）を配置
5月	日本損害保険協会より1987年式普通ポンプ自動車の寄贈を受け、消防署に配備
6月	滝川市において開催された石狩川水防演習に消防本部、消防団が参加

10月	平岸桂町6番地 斎藤彦勝氏に一般市民消防協力者（消火協力）として消防長感謝状を贈呈する。
62年11月	消防科学総合センター「救急基金」より1987年式救急車の寄贈を受け、消防署に配備。昭和50年北海道共済農業協同組合連合会より寄贈の1975年式救急車を老朽のため廃車とする。
11月	赤平、茂尻、文京、平岸少年消防クラブが赤平市長より善行表彰を受賞する。
63年3月	文京少年消防クラブが全国少年消防クラブ運営指導協議会会長より表彰盾を受賞する。
5月	1988年式無線指揮車を購入し、消防本部に配備。昭和51年購入の1976年式指令車を老朽のため廃車とする。
6月	自治体制度40周年記念赤平市消防演習挙行
7月	赤平市危険物安全協会会長 三浦 武氏 消防庁長官表彰「消防関係安全功労者表彰」を受賞する。
8月	8月26日、集中豪雨による被害発生。被害戸数88戸、損害額303,157千円
9月	東日本柔道実業団対抗大会が開催され、消防職員が会場警備に当る。
10月	赤平消防鷹の会が創立される。
11月	赤平市消防団が北海道消防協会より竿頭綬を受賞する。
11月	平岸分団、昭和49年茂尻分団より移管の1972年式消防車を老朽のため廃車とする。
平成元年3月	1989年式消防ポンプ自動車を購入し、平岸分団に配備
3月	茂尻少年消防クラブが全国少年消防クラブ運営指導協議会会長より表彰盾を受賞する。
3月	住友分団解団、解団式を挙行。団員の一部は赤平分団へ移籍。昭和45年購入の1970年式消防車を老朽のため廃車とする。
4月	第6代消防長 東幸男氏 就任
4月	住友分団解団により消防署一部機構改革。1署2係、1出張所、2分遣所となる。
9月	第44回国民体育大会柔道競技会が開催され、消防職員が会場警備に当る。
10月	4週6休制、試行開始
10月	赤平市消防団条例改正により団員定数110名となる。
10月	1989年式消防ポンプ自動車を購入し、茂尻分団に配備。昭和49年購入の1974年式消防車を老朽のため廃車とする。
11月	元消防司令長 岩淵兼夫氏 勲五等瑞宝章を受賞する。
2年1月	若木町西1丁目 光生食品工業株式会社に一般市民消防協力者として消防長感謝状を贈呈する。
3月	平岸少年消防クラブが全国少年消防クラブ運営指導協議会会長より表彰盾を受賞する。
3月	元団長 菊島節男氏 勲六等瑞宝章を受章する。
4月	機構改革により消防本部5係、消防署3係、出張所2係、2分遣所となる。
4月	第5代消防団長 田中太郎氏 就任
4月	全国消防長会北海道支部道央地区協議会総会を開催
6月	6月13日、落雷、降ひょう、豪雨による被害発生。被害戸数308戸、損害額275,914千円
8月	赤平開基百年記念消防演習挙行
11月	1990年式化学消防ポンプ自動車を購入し、消防署に配備。昭和50年購入の1975年式化学車を老朽のため廃車とする。
3年1月	赤平、茂尻、文京、平岸少年消防クラブが赤平市青少年問題協議会より善行表彰を受賞する。
2月	平成2年8月7日から平成3年2月8日まで186日間無火災連続記録樹立
3月	元消防団長夫人 菊島美代子氏より赤平、茂尻、文京、平岸分団に分団旗の寄贈を受ける。
3月	消防本部、消防団が消防庁長官より表彰旗を受賞する。
4月	第七代消防長 川合隆安氏 就任
5月	東大町4丁目 知里昭彦氏に一般市民消防協力者（消火協力）として消防長感謝状を贈呈する。
6月	消防本部発足30周年・消防庁長官表彰旗受賞記念赤平市消防演習挙行
9月	元消防監 仁田力夫氏 従六位 勲五等瑞宝章を受賞する。

- 10月 消防署、昭和50年日本損害保険協会より寄贈の1975年式消防ポンプ自動車を老朽のため廃車とする。
- 11月 昭和49年購入の1974年式消防ポンプ自動車を赤平分団から消防署に配備替
- 11月 元副分団長 橋邊富五郎氏 勲六等瑞宝章を受章する。
- 3年12月 赤平市防火管理者協会創立25周年記念誌発行
- 4年 1月 4週6休に伴う土曜閉庁を実施
- 3月 女性消防団員8名を任命。消防団本部に配置
- 3月 赤平少年消防クラブが全国少年消防クラブ運営指導協議会会長より表彰盾を受賞する。
- 4月 第8代消防長 小野武志氏 就任
- 4月 消防署茂尻出張所管理係を消防1係、指導係を消防2係に名称変更
- 9月 赤平市消防創立70周年記念式典並びに記念演習挙行、記念誌発行
- 11月 北海道共済農業協同組合連合会より1992年式救急車2B型の寄贈を受け、消防署に配備
- 11月 昭和53年山之内製薬より寄贈の1978年式救急車を老朽のため廃車とする。
- 11月 消防署、赤平分団より移管の1974年式消防ポンプ自動車を老朽のため廃車とする。
- 12月 1992年式消防ポンプ自動車CD-II型4WDを購入し、赤平分団に配備
- 5年 3月 赤平市燃焼機器整備業協会創立20周年記念式典挙行並びに記念誌発行
- 6月 自治体消防発足45周年記念赤平市消防演習挙行
- 7月 赤平市防火管理者協会会長 竹俣紀一氏 消防庁長官表彰「消防関係安全功労者表彰」を受賞する。
- 8月 平成5年2月23日から平成5年8月15日まで174日間無火災連続記録樹立
- 8月 全国消防長会北海道支部警防事務研究会を開催
- 6年 1月 4週8休に伴う完全週休2日制を実施
- 2月 共和自警団解団
- 4月 第9代消防長 林久貢氏 就任
- 4月 消防署救急係を消防署救急救助係に名称変更
- 4月 第6代消防団長 中村信男氏 就任
- 5月 1994年式東洋ゴム工業(株)製手漕ぎ式ゴムボートを購入し、消防署に配備
- 6月 住吉自警団解団
- 6月 市制施行40周年記念赤平市消防演習挙行
- 9月 幌岡自警団解団
- 7年 1月 消防緊急通信指令装置I型を購入し、消防本部通信指令室に配置。1月25日より運用開始する。
- 6月 赤平中央婦人会防火クラブ創立される。
- 6月 第41回北海道消防協会空知地方支部中空知支部連合演習挙行
- 7月 第9代消防長 林久貢氏 教育長就任
- 7月 第10代消防長 高橋正治氏 就任
- 9月 赤平幼稚園幼年消防クラブ創立される。
- 9月 いずみ幼稚園幼年消防クラブ創立される。
- 9月 幼年消防クラブ、少年消防クラブ及び婦人防火クラブによる赤平市幼少年婦人防火委員会が創立される。
- 10月 文京分団、昭和52年購入の1977年式消防ポンプ自動車を老朽のため廃車とする。
- 11月 元団長 田中太郎氏 勲五等瑞宝章を受章する。
- 11月 赤平市危険物安全協会創立30周年記念式典挙行並びに記念誌発行
- 8年 3月 1996年式消防ポンプ自動車CD-II型低床式4WDを購入し、文京分団に配備
- 3月 平成7年2月7日から平成8年3月4日まで392日間無火災連続記録樹立
- 6月 消防本部発足35周年記念赤平市消防演習挙行
- 9月 赤平市防火管理者協会創立30周年記念式典挙行並びに記念誌発行
- 9月 日本損害協会より1996年式水槽付消防ポンプ自動車II型4WDの寄贈を受け、消防署茂尻出張所に配備。昭和54年購入の1979年式水槽付消防ポンプ自動車を老朽のため廃車とする。
- 10月 消防組織法の改正により消防職員委員会が創立される。

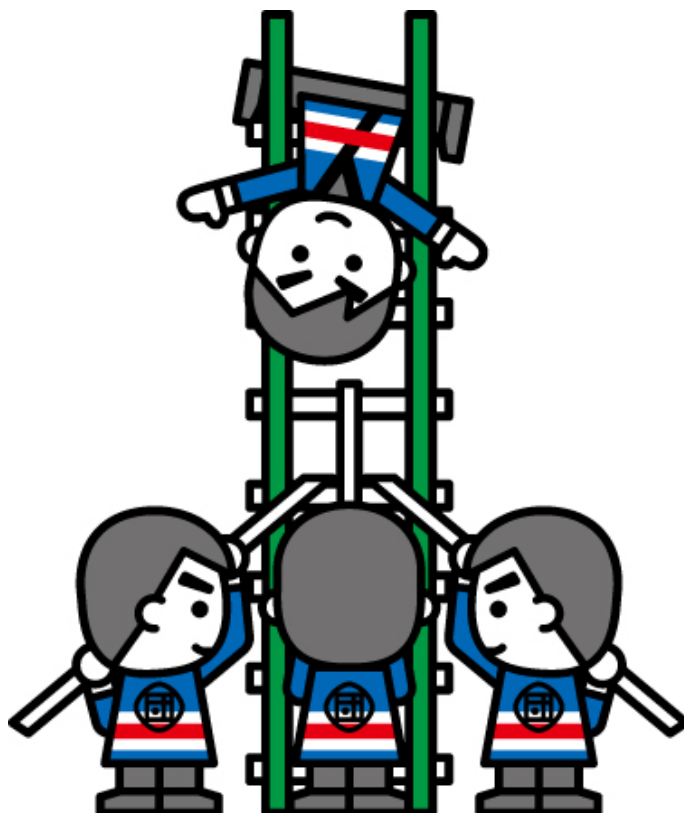
11月	消防無線（基地局3基、固定局1基、移動局20基）を購入し、消防署に配備。昭和55年整備された消防無線を老朽のため廃棄とする。
9年	救急波（複信方式）を増波
5月	無線受令機15基購入し、職員に配備
5月	本部通信指令室に、北海道総合行政情報ネットワーク専用電話を設置
9年11月	元消防司令 島畑信明氏 正七位 勲六等瑞宝章を受章する。
10年3月	1998年式救助工作車Ⅱ型4WDを購入し、消防署に配備。消防本部庁舎裏に救助工作車格納庫を建設
4月	機構改革により課制を導入。消防本部2課4係、消防署2課1出張所4係2分遣所となる。
4月	第11代消防長 久保田春夫氏 就任
4月	第7代消防団長 孫崎稔氏 就任
5月	無線受令機10基購入し、職員に配備
6月	自治体消防制度50周年記念赤平市消防演習挙行
9月	昭和59年財団法人日本消防協会より寄贈の1984年式広報車を老朽のため廃車とする。
11月	1998年式防火広報車を購入し、消防本部に配備
11月	元分団長 新山藤吉氏 勲六等瑞宝章を受章する。
12月	消防本部通信指令室に、自動車電話及び携帯電話からの119番通報着信専用電話を設置
12月	元団長 中村信男氏 勲五等瑞宝章を受章する。
11年1月	若木町北5丁目 佐藤秋太郎氏に一般市民消防協力者（消火協力）として消防長感謝状を贈呈する。
4月	無線受令機10基購入し、職員に配備
6月	全国消防長会北海道支部道央地区協議会警防・救急事務研究会を開催
7月	北海道消防操法訓練大会に消防団選抜隊がポンプ車操法の部に参加
12年1月	コンピューター2000年問題により、消防職員が医療機関の警戒に当る。
2月	高規格救急車（トヨタハイメディック）を購入し、消防署に配備
2月	昭和62年消防科学総合センター「救急基金」より寄贈の1987年式救急車を老朽のため廃車とする。
3月	高規格救急車（トヨタハイメディック）運用開始
4月	第12代消防長 内田保氏 就任
4月	赤平市消防本部の組織に関する規則及び赤平市消防署の組織に関する規程の全部改正より、事務分掌の一部変更並びに消防署警防課救急救助係を消防署警防課救急係に名称変更する。
7月	赤平市消防警防規程及び赤平市消防通信規程の全部改正
10月	元団長 孫崎稔氏 勲五等瑞宝章を受章する。
11月	第8代消防団長 鎌田恒彰氏 就任
13年2月	元消防司令長 松本秀男氏 勲五等双光旭日章を受章する。
3月	赤平市少年消防クラブが全国少年消防クラブ運営指導協議会会長より表彰旗を受賞する。
4月	赤平市消防団機構改革により、団本部に分団長、部長を配置し、女性消防団員2名を増員する。
7月	ハヤサカ自動車工業株式会社より、防火思想普及活動のためミニ消防車の寄贈を受け、消防署に配備。これに伴い代表取締役 早坂弘幸氏が赤平市長より善行表彰を受賞する。
9月	9月10日から13日まで集中豪雨による被害発生。被害戸数4戸、損害額113,500千円
8月	消防本部通信指令室の改修工事を行う。
10月	平成5年7月より、(財)北海道健康づくり財団に委託していた家庭用緊急通報システムの受信業務を消防署通信指令室内に受信センターを設置し、運用開始
11月	消防団活性化事業として、消防ホース、携帯無線機、空気呼吸器、防火衣及び2002年式指揮広報車を購入する。
12月	昭和63年購入の1988年式無線指揮車を老朽のため廃車とする。
14年2月	昭和62年日本損害保険協会より寄贈の1987年式消防ポンプ自動車を老朽化により廃車とする。
4月	第13代消防長 大坂惇氏 就任
4月	赤平市消防署の組織に関する規程の一部改正により、消防署茂尻出張所消防一係及び消防

		二係を消防係に名称変更する。
	4月	赤平市消防団機構改革により、団本部に副分団長を配置する。
	4月	赤平市危険物安全協会と燃焼機器整備業協会が合併し、赤平市危険物安全協会となる。
	9月	赤平市消防創立80周年記念式典並びに記念演習挙行、記念誌発行
	10月	消防団自立に伴い、赤平分団及び茂尻分団を業務移管する。
14年	10月	幸町4丁目4番地にシルバーハウジングが新築され、消防署通信指令室内にシルバーハウジング緊急通報受信センターを設置し、運用開始
15年	3月	元消防監 高橋正治氏 正七位 勲五等瑞宝章を受章する。
	4月	若木町東4丁目 戸澤寛氏に一般市民消防協力者（人命救助）として消防長感謝状を贈呈する。
	7月	昭和54年購入の1979年式ボート・トレーラを老朽のため廃車とする。
	8月	昭和58年購入の1983年式消防用特殊作業車を老朽のため廃車とする。
	9月	赤平市消防本部の組織に関する規則及び赤平市消防署の組織に関する規程の全部改正により、事務分掌の一部変更並びに消防本部総務課に企画係を新設、消防署警防課に警防係、施設係を配置、消防署指令課に指令係、救急係を配置、消防署茂尻出張所消防係を廃止、消防本部2課5係、消防署2課4係1出張所となる。
	10月	消防団自立に伴い、平岸分団及び文京分団を業務移管する。
	11月	消防団活性化総合整備事業によりサイレン遠隔吹鳴装置導入
	11月	元消防司令長 樋郡勝司氏 瑞宝単光章を受章する。
	12月	昭和54年購入の1979年式救助艇を老朽のため廃艇とする。
16年	3月	平岸分団詰所老朽により平岸新光町1丁目30番地4に新築し移転する。
	4月	第14代消防長 小塚芳嗣氏 就任
	4月	赤平市消防団長 鎌田恒彰氏 北海道消防協会空知地方支部中空知分会長 就任
	4月	元消防司令長 田村敦實氏 瑞宝単光章を受章する。
	7月	2004年式アキレス社製船外機付ゴムボートを購入し、消防署に配備
	11月	元副団長 平瀬博氏 瑞宝単光章を受章する。
17年	2月	若木町西6丁目 菅原保治、錦町1丁目 村上馨の両氏に一般市民消防協力者（人命救助）として市長感謝状を贈呈する。
	3月	消防署通信指令室内に、日本テレコム加入電話による119番通報受信装置を設置し、運用開始
	4月	防災業務が市総務部総務課から消防本部へ移管
	4月	赤平市消防本部の組織に関する規則及び赤平市消防署の組織に関する規程の一部改正により、事務分掌の一部変更並びに消防本部総務課企画係を企画防災係、消防署指令課を指令救急課にそれぞれ名称変更し、消防署茂尻出張所を廃止する。
	4月	赤平市危険物安全協会と赤平市防火管理者協会が合併し、赤平市防火安全協会となる。
	4月	赤平幼稚園といずみ幼稚園の統合により、いずみ幼稚園幼年消防クラブが解散
	4月	消防署通信指令室内にKDDI加入電話による119番通報受信装置を設置し、運用開始
	4月	元分団長 堺正雪氏 瑞宝単光章を受章する。
	6月	第51回北海道消防協会空知地方支部中空知分会連合演習挙行
	8月	消防署通信指令室内に、携帯電話からの119番直接受信装置を設置し、運用開始
	9月	消防署通信指令室内に、平成電電加入電話による119番通報受信装置を設置し、運用開始
	9月	消防本部庁舎裏救助工作車格納庫に赤平分団車格納庫を増設
	11月	元消防司令補 島崎昭三氏 瑞宝単光章を受章する。
	11月	赤平市と株式会社FMなかそらちとで『災害時における災害広報活動の協力に関する協定書』締結
18年	2月	元副分団長 大田節氏 瑞宝単光章を受章する。
	3月	消防署通信指令室内に日の出団地シルバーハウジング、青葉団地シルバーハウジング緊急通報受信装置を設置し、運用開始
	4月	国民保護業務が市総務部総務課から消防本部へ移管
	4月	赤平市消防本部の組織に関する規則及び赤平市消防署の組織に関する規程の全部改正によ

り、事務分掌の一部変更並びに消防本部総務課庶務係を総務係に名称変更、消防本部総務課企画防災係を廃止、消防本部防災課防災係を新設、消防署指令救急課及び消防署警防課施設係を廃止し、消防署警防課に指令係、救急係を配置、消防本部3課5係、消防署1課3係となる。

- 18年 8月 赤平市と株式会社ニッショウマート赤平店、たきかわ農業協同組合とで『災害時における食糧等の供給に関する協定書』を締結
- 11月 元消防司令長 阿部政利氏 瑞宝単光章を受章する。
- 12月 赤平ライオンズクラブより創立45周年記念事業の一環として消防査察車（ホンダライフ4WD）の寄贈を受け、消防署に配備。これに伴い赤平ライオンズクラブ会長 植村正義氏が赤平市長より善行表彰を受賞する。
- 12月 赤平市国民保護計画を策定
- 19年 4月 赤平市消防本部の組織に関する規則及び赤平市消防署の組織に関する規程の全部改正により、事務分掌の一部変更並びに消防本部・署の課制を廃止し、消防本部6係体制とする。また、本部職員が消防署勤務を兼務する。
- 4月 第15代消防長 中村高庸氏 就任
- 4月 第9代消防団長 吉成茂明氏 就任
- 4月 元消防司令長 木田勲氏 瑞宝単光章を受章する。
- 6月 赤平市と赤平建設業協会とで『災害時における応急措置に関する協定書』を締結
- 7月 元消防司令長 樋郡勝司氏 従七位を受章する。
- 7月 赤平市消防本部の組織に関する規則及び赤平市消防署の組織に関する規程の一部改正により、事務分掌の一部改正並びに消防本部6係体制を廃止し、消防本部4係、消防署2係となる。
- 8月 元消防司令長 岩淵兼夫氏 正七位を受章する。
- 10月 赤平市地域防災計画の全部修正に伴う北海道知事協議終了
- 11月 元副団長 米田務氏 瑞宝単光章を受章する。
- 11月 2007年式小型動力ポンプ付水槽車Ⅱ型を購入し、消防署に配備。
昭和59年購入の1984年式小型動力ポンプ付大型水槽車を老朽のため廃車とする。
- 12月 赤平市水防計画の全部修正に伴う北海道知事協議終了
- 20年 2月 元消防司令長 島崎昭三氏 従七位を受章する。
- 10月 特定小電力無線機（トランシーバー）5機購入し、1号車と指令車に配備
- 21年 3月 休日・夜間の当番病院が市立赤平総合病院のみとなったことから、急病テレホンセンターを廃止とする。
- 4月 赤平市消防職員の勤務時間等に関する規程を一部改正し、休息時間を廃止とする。
- 4月 赤平市消防本部の組織に関する規則の一部改正により、事務分掌の一部変更及び消防本部に総務課を新たに設け、同課に総務係及び消防団係を配置し、1課4係となる。

消 防 機 構
予 算
職 団 員



歴 代 消 防 長

代 別 \ 区 分	氏 名	就 任 年 月 日	退 任 年 月 日	備 考
初 代	望 月 松 雄	S36. 5. 1	S40. 3. 31	
二 代	松 本 秀 男	S40. 4. 1	S50. 6. 22	
	松 本 秀 男	S50. 6. 23	S52. 10. 31	事務取扱助役
三 代	逢 坂 春 政	S52. 11. 1	S57. 7. 1	
四 代	岩 淵 兼 夫	S57. 7. 2	S58. 9. 30	
五 代	仁 田 力 夫	S58. 10. 1	H 元. 3. 31	
六 代	東 幸 男	H 元. 4. 1	H 3. 3. 31	
七 代	川 合 隆 安	H 3. 4. 1	H 4. 3. 31	
八 代	小 野 武 志	H 4. 4. 1	H 6. 3. 31	
九 代	林 久 貢	H 6. 4. 1	H 7. 7. 6	
十 代	高 橋 正 治	H 7. 7. 7	H10. 3. 31	
十 一 代	久保田 春 夫	H10. 4. 1	H12. 3. 31	
十 二 代	内 田 保	H12. 4. 1	H14. 3. 31	
十 三 代	大 坂 惇	H14. 4. 1	H16. 3. 31	
十 四 代	小 塚 芳 嗣	H16. 4. 1	H19. 3. 31	
十 五 代	中 村 高 庸	H19. 4. 1		

歴 代 消 防 団 長

代 別 \ 区 分	氏 名	就 任 年 月 日	退 任 年 月 日	備 考
組 頭初代	細 野 謙	T11. 9.	S 3. 5.	
〃 二代	森 川 利 吉	S 3. 6.	S14. 3.	
警防団長初代	河 崎 八 郎	S14. 4.	S19. 7.	
〃 二代	森 川 利 吉	S19. 8.	S20. 1.	
〃 三代	真 鍋 茂	S20. 2.	S20. 8.	
〃 四代	大 沼 徳 治	S20. 9.	S21. 9.	
〃 五代	望 月 松 雄	S21. 10.	S23. 2.	
消防団長初代	望 月 松 雄	S23. 3. 7	S36. 4. 30	
〃 二代	佐々木 金太郎	S36. 5. 4	S38. 12. 31	
〃 三代	中 川 精 作	S39. 1. 1	S54. 12. 31	
〃 四代	菊 島 節 男	S55. 1. 1	H 2. 3. 26	
〃 五代	田 中 太 郎	H 2. 4. 14	H 6. 4. 13	
〃 六代	中 村 信 男	H 6. 4. 14	H10. 4. 13	
〃 七代	孫 崎 稔	H10. 4. 14	H12. 10. 13	
〃 八代	鎌 田 恒 彰	H12. 11. 1	H19. 3. 31	
〃 九代	吉 成 茂 明	H19. 4. 1		

叙位・叙勲受章者名簿

受章年月日	階 級	氏 名	位 階・勲 等
昭和47年 7月19日	元消防司令長	望月松雄	正七位 勲五等瑞宝章
昭和49年 4月29日	元副団長	小林弘	勲六等单光旭日章
昭和50年 4月29日	元班長	小倉吉蔵	勲七等瑞宝章
昭和51年 4月29日	元分団長	午角伝吉	勲七等瑞宝章
昭和53年 4月29日	元分団長	安原信治	勲七等青色桐葉章
昭和61年 4月29日	元団長	中川精作	勲五等瑞宝章
平成元年11月 3日	元消防司令長	岩淵兼夫	勲五等瑞宝章
平成2年 3月26日	元団長	菊島節男	勲六等瑞宝章
平成3年 9月 9日	元消防監	仁田力夫	従六位 勲五等瑞宝章
平成3年11月 3日	元副分団長	橋邊富五郎	勲六等瑞宝章
平成7年11月 3日	元団長	田中太郎	勲五等瑞宝章
平成9年11月 2日	元消防司令	島畑信明	正七位 勲六等瑞宝章
平成10年11月 3日	元分団長	新山藤吉	勲六等瑞宝章
平成10年12月15日	元団長	中村信男	勲五等瑞宝章
平成12年10月13日	元団長	孫崎稔	勲五等瑞宝章
平成13年 2月 8日	元消防司令長	松本秀男	勲五等双光旭日章
平成15年 3月 2日	元消防監	高橋正治	正七位 勲五等瑞宝章
平成15年11月 4日	元消防司令長	樋郡勝司	瑞宝单光章
平成16年 4月29日	元消防司令長	田村敦實	瑞宝单光章
平成16年11月 3日	元副団長	平瀬博	瑞宝单光章
平成17年 4月29日	元分団長	堺正雪	瑞宝单光章
平成17年11月 3日	元消防司令	島崎昭三	瑞宝单光章
平成18年 2月 1日	元副分団長	大田節	瑞宝单光章
平成18年11月 3日	元消防司令長	阿部政利	瑞宝单光章
平成19年 4月29日	元消防司令長	木田勲	瑞宝单光章
平成19年 7月 1日	元消防司令長	樋郡勝司	従七位
平成19年 8月23日	元消防司令長	岩淵兼夫	正七位
平成19年11月 3日	元副団長	米田務	瑞宝单光章
平成20年 2月 6日	元消防司令	島崎昭三	従七位

消防庁長官表彰受章者名簿

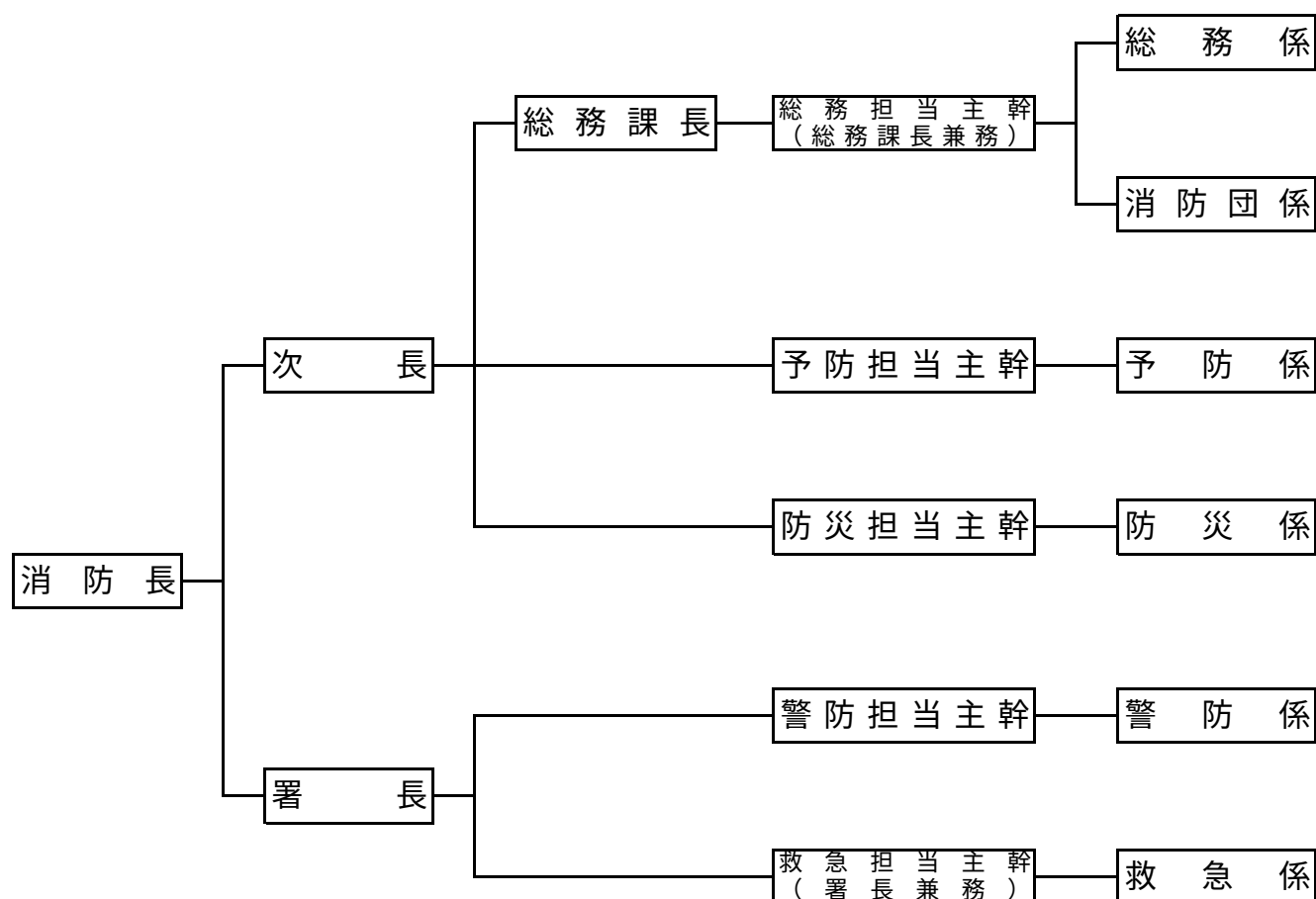
1. 功労章

受章年月日	階 級	氏 名
昭和49年 3月 1日	団 長	中川精作
平成2年 3月 8日	団 長	菊島節男

2. 永年勤続功労章

受章年月日	階 級	氏 名	受章年月日	階 級	氏 名
昭和46年 3月 4日	班 長	大田節	平成9年 3月 5日	分団長	佐藤吉春
昭和52年 3月 4日	分団長	酒井弥吉	平成10年 3月 7日	副分団長	佐藤傳
昭和58年 3月 2日	消防司令長	岩淵兼夫	平成11年 3月 5日	消防監	久保田春夫
昭和60年 3月 6日	消防司令長	仁田力夫	平成11年 3月 5日	分団長	上野勲
昭和60年 3月 6日	副団長	田中太郎	平成13年 3月 8日	消防監	内田保
昭和61年 3月 5日	副団長	中村信男	平成13年 3月 8日	団 長	鎌田恒彰
昭和62年 3月 4日	副分団長	橋邊富五郎	平成14年 3月 6日	分団長	栗林貢
昭和63年 3月 9日	分団長	孫崎稔	平成15年 3月 5日	分団長	渥美茂一
昭和63年 3月 9日	分団長	平瀬博	平成16年 3月 4日	消防監	大坂惇
昭和63年 3月 9日	副分団長	堺正雪	平成16年 3月 4日	分団長	吉成茂明
平成元年 3月 6日	副分団長	新山藤吉	平成17年 3月 4日	消防司令	鈴木正勝
平成2年 3月 8日	消防司令長	樋郡勝司	平成18年 3月 3日	副分団長	戸田嘉喜
平成7年 3月 3日	分団長	米田務	平成19年 3月 2日	消防司令長	小塚芳嗣
平成8年 3月 6日	消防監	高橋正治	平成20年 3月 7日	分団長	鵜飼良城
平成8年 3月 6日	分団長	小林勝男	平成21年 3月 6日	分団長	渡邊忠司
平成9年 3月 5日	消防司令長	田村敦實			

消 防 本 部 (署) 組 織 図



消 防 庁 舎 の 概 要

名 称	所 在 地	構 造	敷地面積㎡	建物延面積㎡	竣 工 年 月	備 考
消防本部(署) (団 本 部) (赤 平 分 団)	大町1丁目 5番地	鉄筋コンクリート 2階建	1261.52	927.63	S36.6	S44.6一部増改築 S52.10一部増改築
茂尻分団詰所 (茂 尻 分 団)	茂尻中央町 北1丁目3番地	鉄筋コンクリート 2階建	1317.98	450.24	S43.6	
平岸分団詰所 (平 岸 分 団)	平岸新光町 1丁目30番地 4	鉄骨造平屋	1210.55	136.08	H16.3	
文京分団詰所 (文 京 分 団)	西文京町 4丁目2番地	木造珧珧 2階建	649.68	252.06	S43.6	
消防機械器具 倉 庫	西文京町 4丁目2番地	コンクリート ブロック2階建		93.23	S57.8	文京分団詰所 同一敷地内に建設
救 助 工 作 車 赤 平 分 団 車 格 納 庫	大町3丁目 5番地	鉄骨造角波 カラー鉄板 平屋	299.40	95.00	H 9.12	消防本部裏専用 駐車場敷地内に建設 H17.9赤平分団車 格納庫増築

一般会計と消防費（当初予算）の比較

（単位：千円）

区 分 \ 年 度		平成 1 9 年 度	平成 2 0 年 度	平成 2 1 年 度
一 般 会 計 （ A ）		8,637,991	8,290,401	7,709,241
消 防 費	常 備 消 防 費	17,411	18,420	20,021
	非 常 備 消 防 費	12,800	13,077	13,331
	消 防 施 設 費	46,907	976	31,696
	防 災 費	1,664	691	1,677
	職 員 給 与 費	258,955	183,195	215,072
	計（B）	337,737	216,359	281,797
比 率 B / A × 1 0 0		3.91%	2.61%	3.66%

消防費の人口・世帯別状況

区 分 \ 年 度		平成 1 9 年 度	平成 2 0 年 度	平成 2 1 年 度
消 防 費		337,737千円	216,359千円	281,797千円
市 民 一 人 あ た り の 消 防 費		23,851 円	15,774 円	21,255 円
一 世 帯 あ た り の 消 防 費		46,578 円	30,388 円	40,355 円

消防現有力の人口・世帯・面積別状況

区 分	人 口	世 帯	面 積
	13,258 人	6,983 世帯	129.88 km ²
職員一人あたり (3 8 名)	348.89	183.76	3.42
団員一人あたり (9 1 名)	145.69	76.74	1.43
消防車一台あたり (7 台)	1894.00	997.57	18.55

消 防 職 員 階 級 別 配 置

(単位：人)

所 属			階 級 別	計	消 防 司 令 長	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 防 士 長	消 防 副 士 長	消 防 士	
消 防 本 部	消 防 長			1	1						
	次 長			1		1					
	総 務 課	総 務 課 長			1		1				
		総務担当主幹（総務課長兼務）			0						
		総 務 係			6			1	3		2
	消 防 団 係			3			1		2		
	予 防 担 当 主 幹			1		1					
	予 防 係			7			1	6			
	防 災 担 当 主 幹			1		1					
防 災 係			3			1	1	1			
消 防 署	署 長			1		1					
	警 防 担 当 主 幹			1		1					
	警 防 係			8			2	4	2		
	救急担当主幹（署長兼務）			0							
	救 急 係			4			1	1	2		
合 計				38	1	6	7	15	7	2	

※ 非常時の体制は別に組織する。

消 防 職 員 教 育 状 況

(単位：人)

派 遣 先	教 育 課 程 別		平成19 年度まで	平成20 年度派遣	合 計
北海道 消防学校	初 任 教 育		36		36
	専科教育	警 防 科	3	1	4
		無 線 通 信 課 程	2		2
		予 防 査 察 科	6	1	7
		危 険 物 科	3	1	4
		火 災 調 査 科	4	1	5
		救 急 課 程 (Ⅰ 課 程)	2		2
		救 急 Ⅱ 課 程	4		4
		救 急 科	21		21
		救 助 科	10	1	11
	特別教育	消防ポンプ操法指導員課程	2		2
		気 管 挿 管 講 習	6	1	7
		薬 剤 投 与 講 習	1	1	2
北九州消防学校	気 管 挿 管 再 認 定 講 習			1	1
	特別教育 薬 剤 投 与 講 習		1		1
北 海 道 市 町 村 職 員 研 修 セ ン タ ー	一般研修 監督者・指導能力研修		10		10
	指導者 接遇研修指導者養成		1		1
	養成研修 OJT指導者養成研修		1		1
	専門研修 法令実務（基礎）		2		2
	能力開発研修 プレゼンテーション研修		1		1
合	計		116	8	124

消 防 職 員 の 特 殊 技 能 資 格

(単位：人)

階 級 別 技能資格種別	消 防 司 令 長	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 防 士 長	消 防 副 士 長	消 防 士	合 計
普 通 自 動 車 第 一 種 運 転 免 許	1	6	7	15	7	2	38
大 型 自 動 車 第 一 種 運 転 免 許	1	6	7	12	3		29
大 型 自 動 車 第 二 種 運 転 免 許				1			1
牽 引 自 動 車 第 一 種 免 許		1					1
大 型 特 殊 自 動 車 第 一 種 運 転 免 許		5	4	1	1		11
車 両 系 建 設 機 械 技 能 講 習 修 了 者	1	5	1	1			8
小 型 移 動 式 ク レ ン 技 能 講 習 修 了 者		6	5	1			12
玉 掛 技 能 講 習 修 了 者		6	5	1			12
一 級 小 型 船 舶 操 縦 士		2					2
二 級 小 型 船 舶 操 縦 士		2	1	2			5
消 防 設 備 士 乙 種 四 類		1		1			2
消 防 設 備 士 乙 種 六 類		1	2	2	1		6
消 防 設 備 士 乙 種 七 類		1					1
危 険 物 取 扱 者 乙 種 一 類				1			1
危 険 物 取 扱 者 乙 種 二 類				1			1
危 険 物 取 扱 者 乙 種 三 類				1			1
危 険 物 取 扱 者 乙 種 四 類		2	4	5			11
危 険 物 取 扱 者 乙 種 五 類				2			2
危 険 物 取 扱 者 乙 種 六 類				2			2
危 険 物 取 扱 者 丙 種			1				1
第 二 級 陸 上 特 殊 無 線 技 士		2		1	2		5
電 話 級 ア マ チ ュ ア 無 線		1	1				2
二 級 ボ イ ラ ー 技 士		2	1	1			4
酸 素 欠 乏 危 険 作 業 主 任 者		1					1
酸 素 欠 乏 ・ 硫 化 水 素 危 険 作 業 主 任 者		1					1
ガ ス 溶 接 技 能 講 習 修 了 者		1		1			2
衛 生 推 進 者 講 習 修 了 者	1		1				2
特 定 化 学 物 質 等 作 業 主 任 者		1					1

救 急 隊 員 資 格 内 訳

(単位：人)

階 級 別 資 格 種 別	消 防 司 令 長	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 防 士 長	消 防 副 士 長	消 防 士	合 計
救 急 救 命 士			2	4	3		9
救 急 隊 員 1 3 5 時 間 講 習 修 了 者		2					2
救 急 隊 員 2 5 0 時 間 講 習 修 了 者	1	4	5	11	4		25
応 急 手 当 指 導 員	1	3	2	4	3		13

年齢区分別階級別消防職員数

(単位：人)

階 級 年齢区分	計	消 防 司 令 長	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 士	防 長	消 副 士	防 長	消 防 士
20 歳 未 満	0								
20歳以上30歳未満	21				12	7	2		
30歳以上40歳未満	11		1	7	3				
40歳以上50歳未満	2		2						
50 歳 以 上	4	1	3						
合 計	38	1	6	7	15	7	2		
平 均 年 齢	32.1歳								

消防職員階級別勤続年数

(単位：人)

階 級 勤続年数	計	消 防 司 令 長	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 士	防 長	消 副 士	防 長	消 防 士
10 年 未 満	18				9	7	2		
10年以上20年未満	14		1	7	6				
20年以上30年未満	2		2						
30 年 以 上	4	1	3						
合 計	38	1	6	7	15	7	2		

年齢区分別階級別消防団員数

(単位：人)

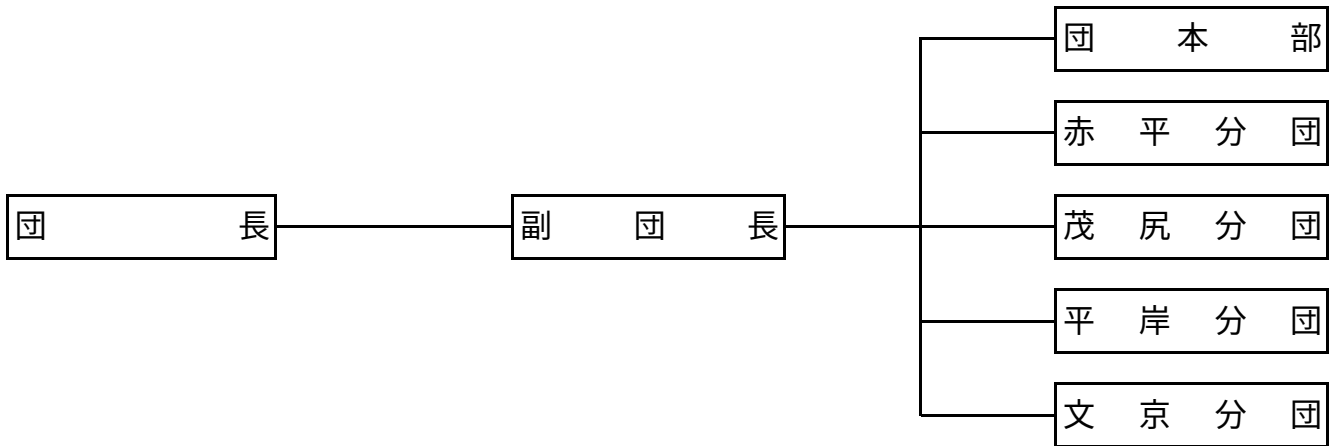
階 級 年齢区分	計	団 長	副 団 長	分 団 長	副分団長	部 長	班 長	団 員
20 歳 未 満	0							
20歳以上30歳未満	7							7
30歳以上40歳未満	27					1	7	19
40歳以上50歳未満	21				1	2	6	12
50歳以上60歳未満	21			3	2	2	5	9
60 歳 以 上	15	1	2	2	2	4	3	1
合 計	91	1	2	5	5	9	21	48
全 消 防 団 員								
平 均 年 齢		46.5歳	男性消防団員平均年齢				46.5歳	
			女性消防団員平均年齢				45.5歳	

消防団員階級別勤続年数

(単位：人)

階 級 勤続年数	計	団 長	副 団 長	分 団 長	副分団長	部 長	班 長	団 員
10 年 未 満	42						4	38
10年以上20年未満	21					4	9	8
20年以上30年未満	11			2	2		6	1
30 年 以 上	17	1	2	3	3	5	2	1
合 計	91	1	2	5	5	9	21	48

消 防 団 組 織 図



消防団員階級別配置

(単位：人)

階 級 分 団 別	計	団 長	副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団 員
団 本 部	17 (12)	1	2	1	1	1 (1)	2 (2)	9 (9)
赤 平 分 団	25			1	1	2	6	15
茂 尻 分 団	18			1	1	2	5	9
平 岸 分 団	15			1	1	2	4	7
文 京 分 団	16			1	1	2	4	8
合 計	91 (12)	1	2	5	5	9 (1)	21 (2)	48 (9)

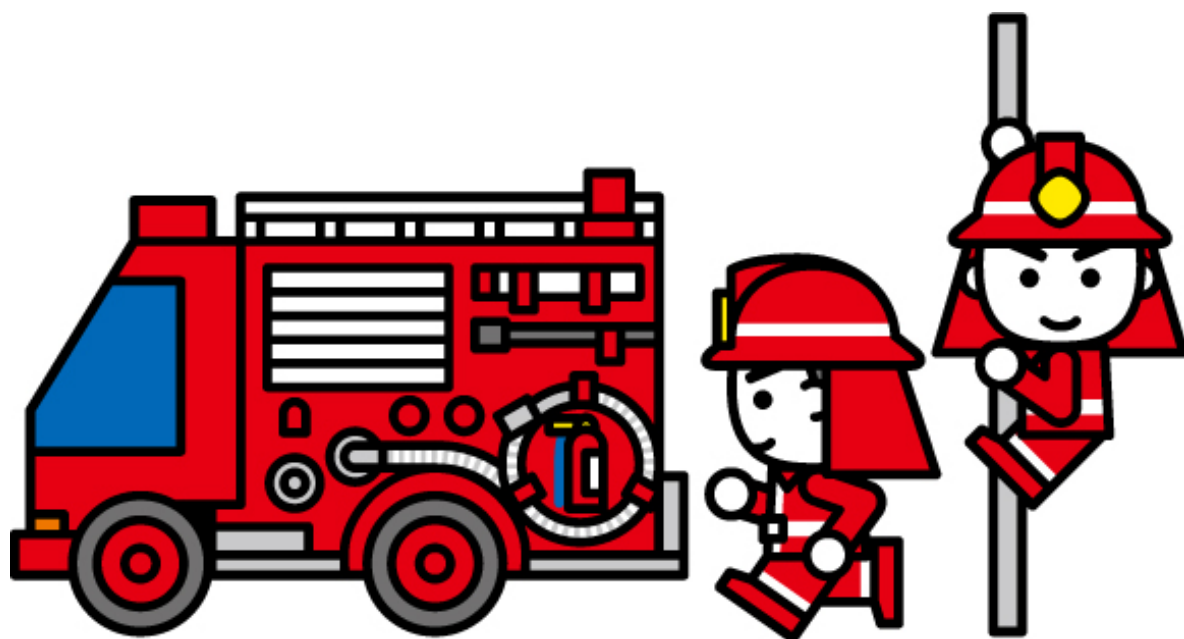
※ 括弧内数字は女性消防団員うち数

過去 5 年間の分団別出勤率

(1月～12月) (単位：%)

年 別 分 団 別	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平 均
団 本 部	83.4	81.1	89.7	87.6	85.8	85.5
赤 平 分 団	67.3	64.7	67.1	66.4	66.9	66.5
茂 尻 分 団	70.0	67.5	69.6	66.9	65.8	68.0
平 岸 分 団	79.3	77.9	79.0	83.3	73.6	78.6
文 京 分 団	76.3	72.1	73.9	77.0	76.1	75.1
平 均	75.3	72.7	75.9	76.2	73.6	74.7

消 防 施 設



通 信 施 設 の 状 況

施設等	無線電話(局)				受令機(台)	専用回線(回線)										救急車積載携帯電話(台)	一般回線(回線)		サイレン吹鳴装置(式)		北海道総合行政情報ネットワーク(回線)			
	基地局(3波)	固定局	移動局			119番通報専用			近隣市町転送用※	携帯電話119番通報	火災案内専用	自動通報用	関係機関連絡用	心電図伝送用※	緊急通報用 家庭用(88世帯) シルバーハウジング(132世帯) ※		一般加入回線		FAX回線	サイレン吹鳴装置(制御装置)		サイレン吹鳴子局装置		
			車載用	携帯用		N	I	P									電話※	携帯電話※					本部・署※	分団詰所
計	1	5	13	14	38	3	2	2	1	2	5	1	1	1	3	2	3	2	1	4	1			
合計	1	5	27		38	7			1	2	5	1	1	1	3	5		2	1	4	1			

※ はI S D N回線

消 防 車 両 現 勢

区分 所属	車両別(型式)	メーカー名	型式番号	登録番号	出力	ポンプ	年式 (西暦)	水槽容量 (薬液量)	呼 称
					P S	級別			
消防本部 (消防団)	指揮広報車	トヨタ	TA-JZS173W	札幌 830 ほ 119	196		2001		指令車
	広報車	三菱	R-CD2VLRM	札幌 800 た 143	91		1998		広報車
消 防 署	化学車(Ⅱ型)4WD	三菱	U-FL417FZ改	札幌 88 た 1233	185	A-2	1990	1.3 m ³ (0.5 m ³)	1号車
	小型動力ポンプ付水槽車(Ⅱ型)	日野	BDG-FQ1ERYA改	札幌 800 は 2493	360	B-2	2007	9 m ³	2号車
	水槽付消防ポンプ自動車(Ⅱ型)4WD	日野	KC-FT1JGBL改	札幌 88 た 3361	215	A-1	1996	2 m ³	3号車
	救助工作車(Ⅱ型)4WD	日野	KC-FT1JHBA改	札幌 88 た 3962	215		1998		救工車
	高規格救急自動車 4WD	トヨタ	GE-VCH38S-QFSRK-H	札幌 800 さ 5089	180		1999		救急1号車
	救急車(2B型)4WD	トヨタ	U-LH129S	札幌 88 て 6097	91		1992		救急2号車
	搬送車 4WD	トヨタ	S-CM60	札幌 400 そ 5645	85		1991		搬送車
	消防査察車	ホンダ	CBA-JB6	札幌 580 く 6655	65		2006		査察車
赤平分団	消防ポンプ自動車(CDⅡ型)4WD	三菱	U-FL417E改	札幌 88 て 6081	185	A-2	1992		赤平車
茂尻分団	消防ポンプ自動車(CDⅡ型)	いすゞ	P-FRR12DAV改	札幌 88 て 1852	180	A-2	1989		茂尻車
平岸分団	消防ポンプ自動車(CDⅡ型)	いすゞ	P-FRR12DAV改	札幌 88 て 1212	180	A-2	1989		平岸車
文京分団	消防ポンプ自動車(CDⅡ型)低床式 4WD	日野	KC-FX1JGBA改	札幌 88 と 2071	215	A-2	1996		文京車

消 防 水 利 の 状 況

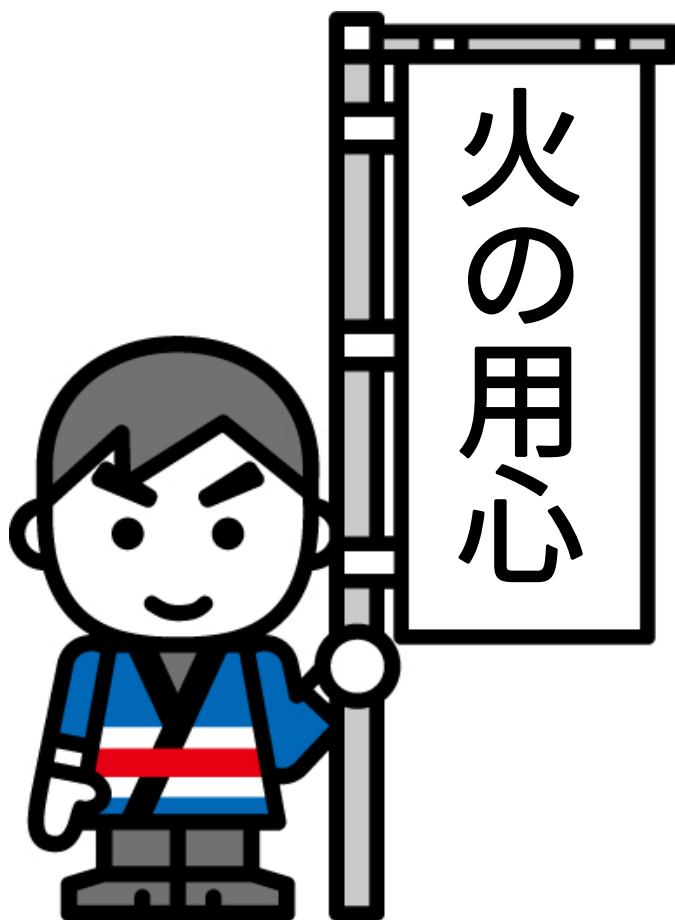
(単位: 基)

水利種別 \ 区 分		規 格		公 設	私 設	合 計
防 火 水 槽	容 量	4 0 m³以上	91	1	92	
		4 0 m³未満	25	1	26	
	小 計		116	2	118	
地 上 式 消 火 栓	管 径	2 0 0 mm	7		7	
		1 5 0 mm	15		15	
		1 0 0 mm				
	小 計		22		22	
合 計			138	2	140	

主な消防用資機材等保有状況

器 具 名			数量	器 具 名			数量	器 具 名			数量
一般 用 救 助 用 器 具	かぎ付はしご	1	切 断 用 器 具 隊 員 保 護 用 器 具	油圧切断機	1	救 急 関 係 器 具	ショック・パンツ	3	救 急 関 係 器 具	ショック・パンツ	3
	二連はしご	8		エンジンカッター	2		自動式心マッサージ器	1		自動式心マッサージ器	1
	三連はしご	3		ガス溶断機	1		輸液ポンプ	1		輸液ポンプ	1
	ワイヤーはしご	1		チェーンソー	1		冷温蔵庫	1		冷温蔵庫	1
	空気式救助マット	1		鉄線カッター	5		マジックギブスセット	1		マジックギブスセット	1
	救命索発射銃	1		空気鋸	1		減圧式固定器具	2		減圧式固定器具	2
	サバイバースリング	1		耐電手袋	5		空気圧副子	2		空気圧副子	2
	平担架	1		耐電衣	2		頸部固定用副子セット	2		頸部固定用副子セット	2
	カラビナ	25		耐電ズボン	2		在宅医療処置セット	1		在宅医療処置セット	1
	滑車	1		耐電長靴	2		分娩セット	2		分娩セット	2
重 量 物 排 除 用 器 具	油圧ジャッキ	1	水 難 救 助 用 器 具	防塵メガネ	5	関 係 器 具	E O G 滅菌器	1	関 係 器 具	E O G 滅菌器	1
	油圧スプレッダー	1		携帯警報器	5		自動手指消毒器	1		自動手指消毒器	1
	可搬ウィンチ	1		防毒マスク	3		自動車用ファクシミリ	1		自動車用ファクシミリ	1
	ワイヤーロープ	19		救命胴衣	13		救助用工具セット	1		救助用工具セット	1
	マンホール救助器具	1		救命浮環	4		救急訓練用人形	9		救急訓練用人形	9
呼 吸 保 護 用 器 具	マット型空気ジャッキ	1	消 火 ・ 照 明 器 具	救命ボート	2	関 係 器 具	患者監視装置	1	関 係 器 具	患者監視装置	1
	チェーンブロック	1		消防用ホース（使用圧1.6kg）	353		心電図モニタ	1		心電図モニタ	1
	牽引用スリング	1		消防用ホース（使用圧1.3kg）	8		パルスオキシメータ	1		パルスオキシメータ	1
	空気呼吸器	20		消防用ホース（濡れホース）	14		心電図伝送・受信装置	1		心電図伝送・受信装置	1
	予備ボンベ	18		訓練用ホース	35		体温計	3		体温計	3
破 壊 用 器 具	要救助者呼吸器具	6	照 明 器 具	ゼロトルクターボノズル	2	関 係 器 具	喉頭鏡セット	2	関 係 器 具	喉頭鏡セット	2
	防塵マスク	5		軽量アルミ管そう	2		血圧計	6		血圧計	6
	送排風機	1		水管保護器	6		自動体外式除細動器	2		自動体外式除細動器	2
	万能斧	2		組立水槽	1		酸素自動蘇生器	1		酸素自動蘇生器	1
	ハンマー	3		山火用背負式消火器	14		手動式人工蘇生器	1		手動式人工蘇生器	1
測 定 用 器 具	携帯用コンクリート破壊器具	1	化 学 消 火 薬 劑 そ の 他 の 器 具	発電機	9	関 係 器 具	携帯用人工蘇生器	1	関 係 器 具	携帯用人工蘇生器	1
	削岩機	1		投光器	9		バックマスク	4		バックマスク	4
	ハンマドリル	1		携帯投光器	27		自動吸引器	2		自動吸引器	2
	可燃性ガス測定器	1		合成界面活性剤	1kl		心肺蘇生用背板	2		心肺蘇生用背板	2
	有毒ガス測定器	1		第3種粉末	87.6kg		メインストレッチャー	2		メインストレッチャー	2
測 定 用 器 具	酸素濃度測定器	1	そ の 他 の 器 具	携帯拡声器	2	関 係 器 具	サブストレッチャー	2	関 係 器 具	サブストレッチャー	2
	張力計	1		携帯警報機	5		スクープストレッチャー	2		スクープストレッチャー	2
	自動火災警報機感知器テスト用具	1		緩降機	1		布担架	2		布担架	2
	煙感知器試験器	1		ロープ登降機	2		全脊柱固定器具セット	1		全脊柱固定器具セット	1
	炭化深度計	1		トランシーバー	5						

防
物
火
の
用
心
予
危
険



防火管理者の選任及び消防計画届出状況

法施行令別表第1の区分			選任義務 対象物数 (A)	選 任 済 対象物数 (B)	消防計画 届 出 数 (C)	選 任 率 (B/A)	届 出 率 (C/A)
1	□	公会堂又は集会場	44	43	40	97.7%	90.9%
2	□	遊技場又はダンスホール	1	1	1	100.0%	100.0%
3	□	飲食店	10	10	10	100.0%	100.0%
4		百貨店、マーケット、販売店舗等	14	12	11	85.7%	78.6%
5	□	寄宿、下宿又は共同住宅	18	15	7	83.3%	38.9%
6	イ	病院、診療所又は助産院	4	4	4	100.0%	100.0%
	□	老人福祉施設、更生施設等	15	15	15	100.0%	100.0%
	ハ	幼稚園、盲学校、聾学校等	1	1	1	100.0%	100.0%
7		小学校、中学校、各種学校等	7	7	7	100.0%	100.0%
8		図書館、博物館、美術館等	1	1	1	100.0%	100.0%
9	イ	公衆浴場のうち、蒸気浴場・熱気浴場・その他これらに類するもの	1	1	0	100.0%	0.0%
	□	公衆浴場	2	2	2	100.0%	100.0%
11		神社、寺院、教会等	14	13	13	92.9%	92.9%
12	イ	工場又は作業場	8	8	7	100.0%	87.5%
15		前各項に該当しない事業場	16	16	16	100.0%	100.0%
16	イ	特定複合用途防火対象物	18	18	16	100.0%	88.9%
	□	イ以外の複合用途防火対象物	3	3	3	100.0%	100.0%
合 計			177	170	154	96.0%	87.0%

月別各種届出状況

届出別／月別		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
消防関係	危険物製造所等	設置許可申請	1											1
	変更許可申請				1				2	1	1			5
	完成検査前検査申請													
	完成検査申請			1					2		3			6
	仮使用承認申請								1					1
	品名、数量又は指定数量の倍数変更届出		1	2							1			4
	廃止届出			1	1			1	1					4
	譲渡引渡届出							2		1				3
	予防規程制定・変更認可申請													
	危険物保安監督者選任・解任届出	2		3	4	1								10
	圧縮アセチレンガス等の貯蔵又は取扱いの開始(廃止)届出		1			1				1				3
	完成検査済証再交付申請													
	防火管理者選任・解任届出	2	5		3			3		2			2	17
	消防計画書作成変更届出			3						1		1		5
赤平市条例関係	消防用設備等着工届出	1			2		1			2	4			10
	消防用設備等設置届出	2	1		3			2	1		3	1		13
	消防用設備等点検結果届出	11	9	6	4	6	14	9	17	53	8	1	7	145
	防火対象物点検報告特例認定申請													
	危険物仮貯蔵、仮取扱承認申請							1						1
	危険物製造所等設置取り止め届出													
	危険物製造所等軽微な変更等届出	1	2					1	1	1	1			7
	火気使用工事届出		1								1			2
	危険物製造所等の設置者等の住所等変更届出	2	3	1		7		1	1					15
	危険物製造所等使用休止・再開届出				1			1					3	5
	液体燃料を使用する燃焼機器の分解掃除及び整備業等届出													
	水圧・水張検査申請													
	裸火使用申請		1											1
	防火対象物使用等開始届出	2	1		1			2	2	1		3		12
規則関係	火を使用する設備等設置届出		1			2		1						4
	変・発・蓄電池設備等設置届出	1	3								3			7
	ネオン管灯設備等設置届出													
	消防訓練実施計画報告	15	14	11	7	4	9	34	5	5	1		4	109
	消防訓練実施結果報告	12	12	11	8	4	7	32	7	7		1	2	103
	火災と紛らわしい煙の届出	1	1	1	2	2		1			1			9
	煙火打ち上げ届出		5	1	1	1						1		9
	催物開催届出			2				1	1					4
	道路工事届出	4		4	4	3		4	1	1	1			22
	消防設備業届出													
	煙突取付・掃除業等届出													
	少量危険物等貯蔵取扱届出	1	1	1				2		1		1		7
	少量危険物等貯蔵取扱廃止届出							1						1
	水素ガスを充てんする気球の設置等届出													

用途及び工事別建築同意事務処理状況

用途別／工事別			合 計	新 築	増 改 築 等
1	イ	劇場、映画館、演芸場、観覧場	()	()	()
	ロ	公会堂又は集会場	()	()	()
2	イ	キャバレー、カフェー、ナイトクラブ等	()	()	()
	ロ	遊技場又はダンスホール	()	()	()
3	イ	待合、料理店等	()	()	()
	ロ	飲食店	()	()	()
4		百貨店、マーケット、販売店舗等	2 ()	2 ()	()
5	イ	旅館、ホテル、宿泊所	()	()	()
	ロ	寄宿舍、下宿、共同住宅	1 ()	1 ()	()
6	イ	病院、診療所、助産院	()	()	()
	ロ	老人福祉施設、更生施設等	2 ()	1 ()	1 ()
7	イ	幼稚園、盲学校、聾学校、養護学校等	()	()	()
	ロ	小学校、中学校、各種学校等	()	()	()
8		図書館、博物館、美術館等	()	()	()
9	イ	公衆浴場のうち、蒸気浴場、熱気浴場等	()	()	()
	ロ	9イ以外の公衆浴場	()	()	()
10		車両停車場、船舶又は航空機発着場	()	()	()
11		神社、寺院、教会等	()	()	()
12	イ	工場、作業場	1 ()	()	1 ()
	ロ	映画スタジオ、テレビスタジオ	()	()	()
13	イ	自動車車庫、駐車場	()	()	()
	ロ	飛行機又は回転翼航空機の格納庫	()	()	()
14		倉庫	1 ()	()	1 ()
15		前各号に該当しない事業場	5 ()	3 ()	2 ()
16	イ	特定複合用途防火対象物	()	()	()
	ロ	イ以外の複合用途防火対象物	()	()	()
—		専用住宅	(7)	(5)	(2)
—		住宅用車庫・物置	1 (2)	1 (2)	()
—		その他	(1)	()	(1)
合 計			13 (10)	8 (7)	5 (3)

() 内数字は、建築通知事務処理件数

危険物施設の現況

施設別／区分		施 設 数	事務処理の状況			
			設 置 許 可 申 請 数	変 更 許 可 申 請 数	完 成 検 査	廃 止 届
貯 蔵 所 取 扱 所	屋 内 貯 蔵 所	4				
	屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所	3				
	屋 内 タ ン ク 貯 蔵 所	7				
	地 下 タ ン ク 貯 蔵 所	47		1	1	1
	移 動 タ ン ク 貯 蔵 所	25		2	2	1
	屋 外 貯 蔵 所	1				
	小 計	87		3	3	2
	給 油 取 扱 所	16				1
	自 家 用	6	1	1	2	
	一 般 取 扱 所	38		1	1	1
小 計	小 口 詰 替 専 用	1				
	小 計	54	1	2	3	2
合 計		141	1	5	6	4

危険物施設の許可数量

区 分		施設数	第 4 類								合 計
			第 1 石 油 類		第 2 石 油 類		第 3 石 油 類		第 4 石 油 類		
			数量(t)	倍 数	数量(t)	倍 数	数量(t)	倍 数	数量(t)	倍 数	
貯 蔵 所	屋 内 貯 蔵 所	4	非水溶性 10,316	52.83	13,200	13.20	2,000	1.00	700	0.11	67.03
			水溶性 500								
	屋外タンク貯蔵所	3					39,500	19.75			19.75
	屋内タンク貯蔵所	7			12,100	12.10	21,200	10.60			22.70
	地下タンク貯蔵所	47			1,265,709	1,265.70	710,600	355.30			1,621.00
	移動タンク貯蔵所	25			75,900	75.90	7,400	3.70			79.60
屋 外 貯 蔵 所	1			20,000	20.00					20.00	
小 計	87	非水溶性 10,316	52.83	1,386,909	1,386.90	780,700	390.35	700	0.11	1,830.08	
		水溶性 500									
取 扱 所	給 油 取 扱 所 (営 業)	10	212,800	1,064.00	212,376	212.37	2,000	1.00			1,276.37
	給 油 取 扱 所 (自 家 給)	6	3,000	15.00	114,700	114.70	10,000	5.00			134.70
	計	16	215,800	1,079.00	327,076	327.07	12,000	6.00	0	0.00	1,411.07
	一 般 取 扱 所	37	1,800	9.00	320,284	320.28	148,111	74.05			403.33
	小 口 詰 替 専 用	1			10,000	10.00					10.00
	計	38	1,800	9.00	330,284	330.28	148,111	74.05	0	0.00	413.33
	小 計	54	217,600	1,088.00	657,360	657.35	160,111	80.05	0	0.00	1,824.40
合 計		141	非水溶性 227,916	1,140.83	2,044,269	2,044.25	940,811	470.40	700	0.11	3,654.48
			水溶性 500								

防火・広報活動月別実施状況

月 別 種 別	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		合 計	
	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員
通 報 訓 練																										
避 難 訓 練	16	383	10	547	8	439	11	535	2	112	7	338	33	915	6	365	6	57			2	172	4	256	105	4,119
消 火 訓 練																										
防 火 教 室	1	15	1	80					1	13			1	13	2	126					1	13			7	260
防 火 映 画																										
防 火 広 報	23	69											36	99			22	96							81	264
消 防 施 設 見 学					1	35	1	16			1	42	2	6	1	1									6	100
防火管理者講習																									0	0
予防・危険物研修会					1	1	1	1			1	1	2	3											5	6
救 急 講 習 会			6	63	1	5					5	118	2	33	2	18	1	16			1	11			18	264

防 火 協 力 団 体

1 赤平市幼少年婦人防火委員会

設 立 平成 7 年 9 月 7 日
事 務 局 消防本部予防係
目 的 幼年消防クラブ、少年消防クラブ及び婦人防火クラブの健全な育成発展に寄与する。

(1) 赤平市少年消防クラブ

設 立 昭和 39 年 6 月 3 日
クラブ員数 30 名
事 務 局 消防本部予防係
目 的 少年に対して明朗活発な気風を育成し、併せて火災予防の普及徹底及び一般防火思想の向上を図り、少年の教育に寄与する。

(2) 赤平幼稚園幼年消防クラブ

設 立 平成 7 年 9 月 1 日
クラブ員数 81 名
事 務 局 消防本部予防係
目 的 幼年に消防研修を行い、火に対する正しいしつけを身につけさせ、幼稚園及び各家庭からの火災の減少を図ると共に、将来人命を尊重し、財産の保全を図る社会人としての素地を育成する。

(3) 赤平婦人防火クラブ

設 立 平成 7 年 6 月 5 日
クラブ員数 30 名
事 務 局 消防本部予防係
目 的 家庭における火災予防の普及徹底及び防火思想の向上を図り、併せて社会福祉の増進に寄与する。

2 赤平市防火安全協会

設 立 平成 17 年 4 月 1 日
会 員 数 152 事業所
事 務 局 消防本部予防係
目 的 会員相互の連絡協調を図るとともに、防火対象物及び危険物施設並びに燃焼機器に起因する災害防止に努め、もって会員の健全な振興発展と社会公共の福祉の増進に寄与する。

火災統計



火 災 の 概 要

(1月～12月)

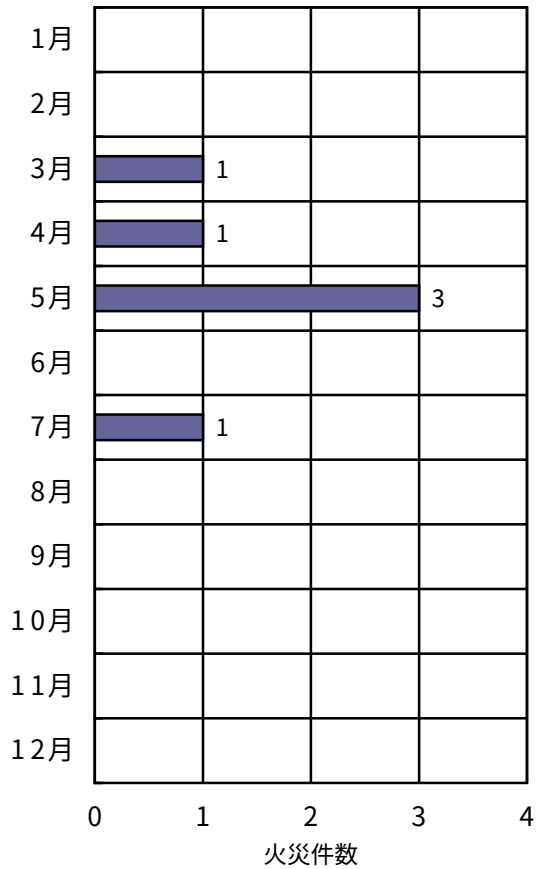
区 分	単 位	平成20年(A)	平成19年(B)	増減(A - B)
火 災 件 数	件	6	8	△ 2
建 物		4	8	△ 4
林 野				
車 両		1		1
そ の 他		1		1
焼 損 棟 数	棟	7	9	△ 2
全 焼		4	4	
半 焼				
部 分 焼		1	2	△ 1
ぼ や		2	3	△ 1
建 物 焼 損 面 積	m ²	606	466	140
建 物 焼 損 表 面 積	m ²	1	2	△ 1
林 野 焼 損 面 積	a	2		2
死 者	人			
負 傷 者	人	1	1	
罹 災 世 帯 数	世 帯	3	4	△ 1
全 損		1	3	△ 2
半 損				
小 損		2	1	1
罹 災 人 員	人	4	4	
損 害 額	千 円	13,406	18,952	△ 5,546
建 物		12,674	18,952	△ 6,278
林 野				
車 両		732		732
そ の 他				

平成 20 年 火 災 記 録

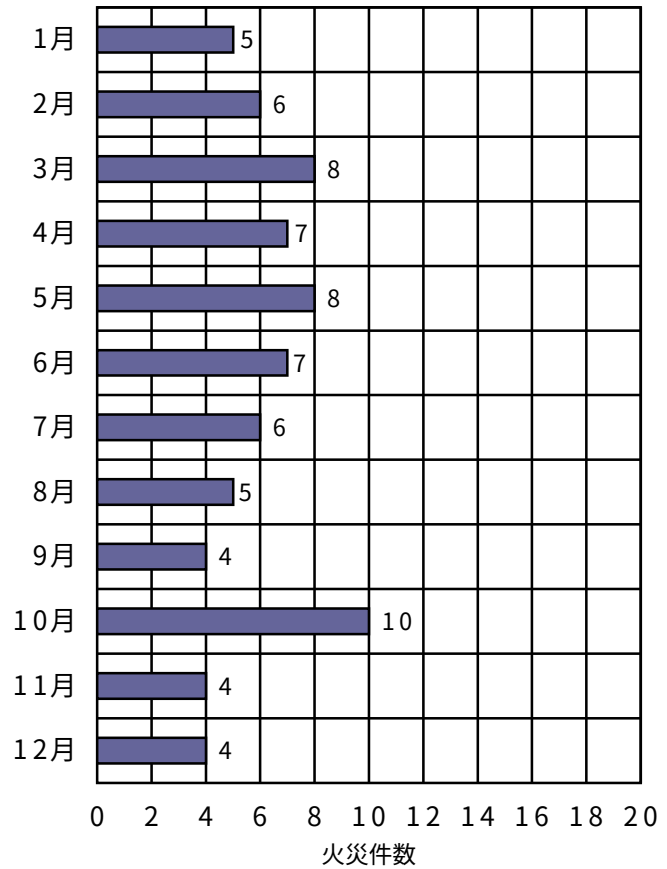
火災 番号	出 火時刻	覚 知方法	火災 種別	罹災世帯数				罹 災人員	死傷者数		焼損棟数					焼損面積			焼 損車 両台数	損 害 額 (千円)					
				死 者	負 傷者	全 焼	半 焼		部 分 焼	ぼ や	合 計	建 物床 ㎡	建 物表 ㎡	林 野 a	建 物		林 野	車 両		そ の 他	合 計				
															全 損	半 損						小 損	合 計	建 築物	収容物
1	11:14	119	建物	1			1	1			2				2	104			1	1,391	116		80		1,587
2	2:07	119	建物			1	1	1		1	1			1	2	33	1			325	22				347
3	10:31	119	その他															2							
4	23:02	119	建物			1	1	2						1	1						49				49
5	11:32	119	建物								1		1		2	469				10,735	36				10,771
6	3:07	119	車両															1				652			652
合 計				1		2	3	4		1	4		1	2	7	606	1	2	2	12,451	223		732		13,406

月別及び曜日別火災件数

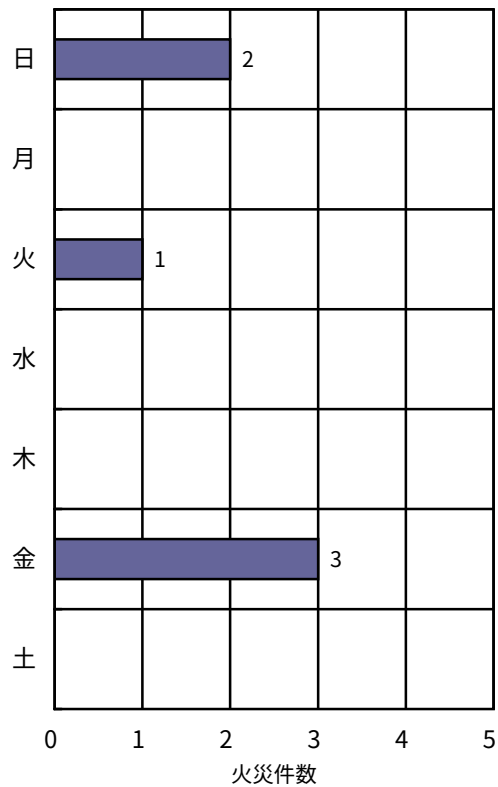
平成20年 月別火災件数



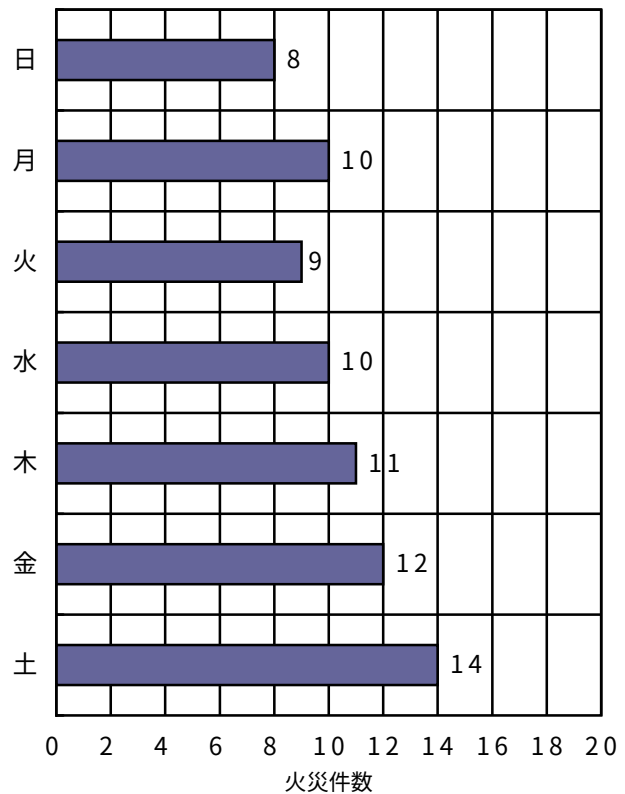
過去10年間 月別火災件数



平成20年 曜日別火災件数

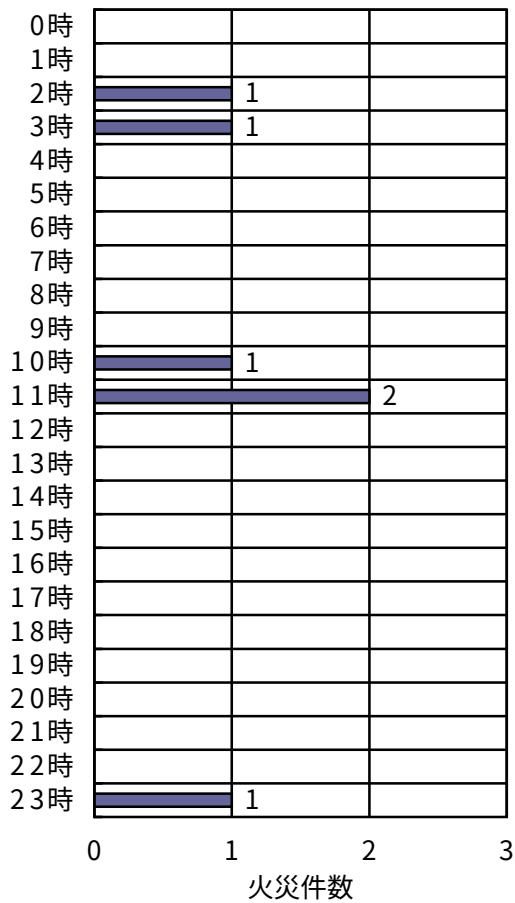


過去10年間 曜日別火災件数

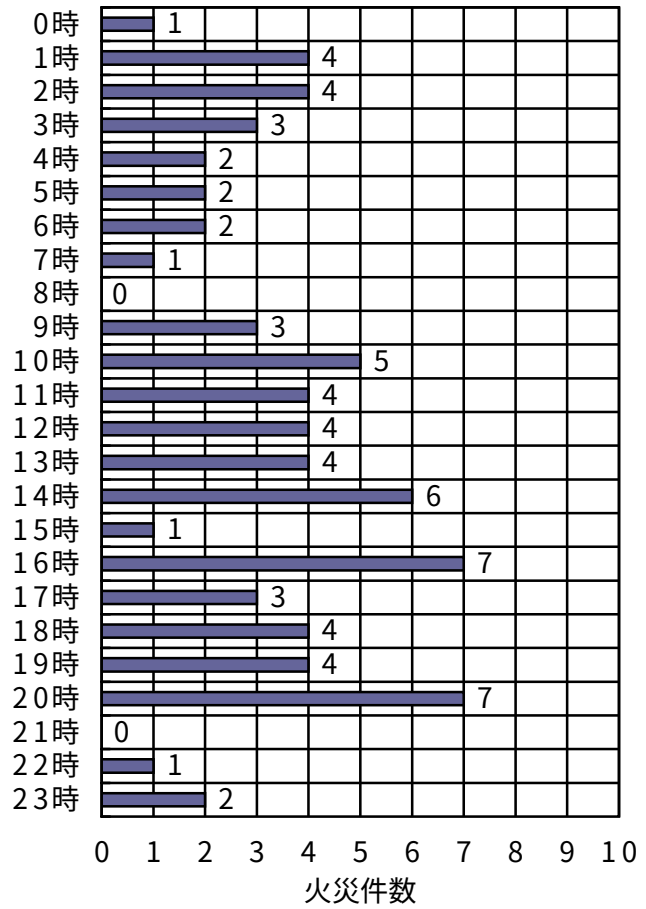


時間別及び季節別火災件数

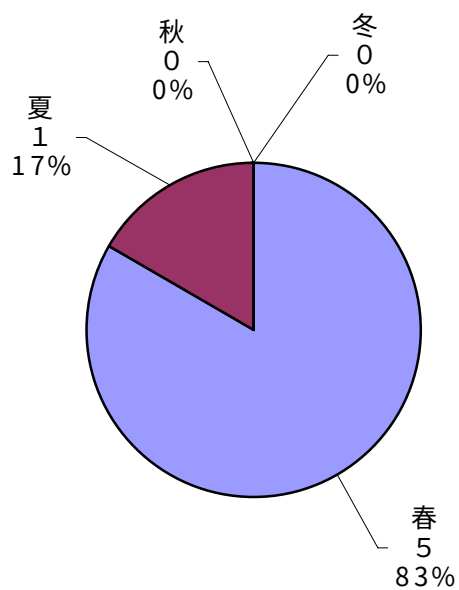
平成20年 時間別火災件数



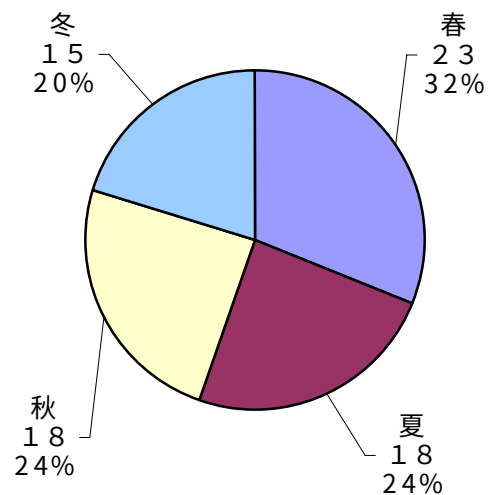
過去10年間 時間別火災件数



平成20年 季節別火災件数



過去10年間 季節別火災件数



過去10年間の出火原因別火災件数

年 別 原因別	平成 11年	平成 12年	平成 13年	平成 14年	平成 15年	平成 16年	平成 17年	平成 18年	平成 19年	平成 20年	合 計
たばこ		2			1	2					5
ストーブ	1		2						1	1	5
こんろ		1	2	1							4
火遊び	1	1					1				3
火入れ・たき火											
放火の疑い		1				1					2
放 火							1			2	3
煙突・煙道				1	1	2				1	5
風呂釜				2		1					3
マッチ・ライター											
取灰（すす含）						1					1
電灯・電話等の配線	3		1	2	1				1		8
電気機器		1									1
ガスの漏洩											
線香・ローソク			1								1
漏 電						1					1
自動車構造不良	1										1
鍋のかけ忘れ					2						2
飛び火											
ガスバーナー									1		1
そ の 他	3	2		1			2	1	2	1	12
不明・調査中	2	2	1		1	1	4	1	3	1	16
合 計	11	10	7	7	6	9	8	2	8	6	74

過去10年間の火災状況

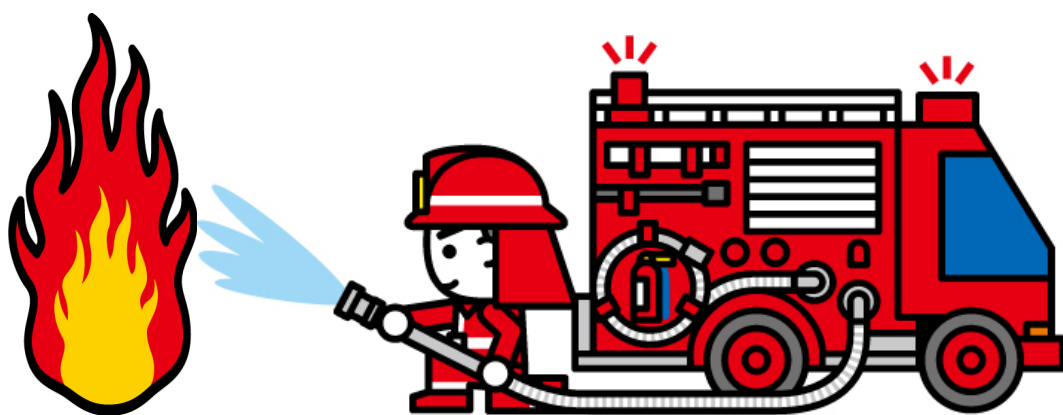
区分 年	出火件数					焼損棟数					罹災		死傷者数		焼損面積			損害額 (千円)			
	建物	林野	車両	その他	合計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	合計	世帯数	人員	死者	負傷者	建物床m ²	建物表m ²	林野a	建築物	収容物	林車 野両 その他	合計
平成11年	9		2		11	2	2	3	2	9	7	18		3	239	2		15,725	3,603	65	19,393
平成12年	6		3	1	10		1	2	3	6	5	11		2	296			3,668	3,509	1,479	8,656
平成13年	7				7	1	1	5		7	8	15		3	169			10,297	2,228		12,525
平成14年	5		2		7	1	1	3	1	6	6	13			149	6		8,133	3,552	123	11,808
平成15年	4		1	1	6	2			2	4	4	8		3	159			14,481	1,296	905	16,682
平成16年	9				9	5		2	3	10	7	16	1	1	659			60,986	14,120		75,106
平成17年	5		2	1	8	3		1	1	5	4	12	2	3	303			4,113	2,372	544	7,029
平成18年	2				2	1		1		2	2	4			90	2		4,111	2,138		6,249
平成19年	8				8	4		2	3	9	4	4		1	466	2		17,927	1,025		18,952
平成20年	4		1	1	6	4		1	2	7	3	4		1	606	1	2	12,451	223	732	13,406
合計	59		11	4	74	23	5	20	17	65	50	105	3	17	3,136	13	2	151,892	34,066	3,848	189,806

過 去 の 主 な 火 災

発生年	発 生 場 所	業 態	死 者	負傷者	罹災人員	焼損面積(m ²)	損害額(千円)	発 生 原 因
昭和38年	赤平・住友地区	飲食店	2	2	22	247	10,000	石油ストーブ
〃	茂尻・平岸地区	共同住宅			116	1,662	16,141	煙突からの飛び火
〃	赤平・住友地区	共同住宅		2	307	4,899	36,309	煙突からの飛び火
〃	赤平・住友地区	遊技場	3		17	307	2,258	不明
昭和40年	赤平・住友地区	共同住宅		1	43	601	12,013	火遊び
〃	茂尻・平岸地区	共同住宅		2	46	745	10,233	ガソリンの引火
〃	赤平・住友地区	共同住宅	1		27	337	6,402	ストーブの過熱
昭和41年	赤平・住友地区	工場	1	2			800	石炭の自然発火
〃	文京・幌岡地区	公共施設		1		819	16,570	放火の疑い
〃	赤平・住友地区	工場		1		2,074	51,533	不明
昭和42年	赤平・住友地区	共同住宅	2		27	337	4,141	たばこの不始末
昭和44年	赤平・住友地区	共同住宅			43	1,240	18,240	不明
昭和45年	茂尻・平岸地区	工場		1		1,435	16,844	不明
昭和57年	文京・幌岡地区	住宅	1		1	31	1,092	石油ストーブ
昭和58年	赤平・住友地区	住宅	1		1	46	3,343	石油ストーブ
〃	文京・幌岡地区	遊技場		2		943	27,774	サンダーの火花
〃	赤平・住友地区	共同住宅	1		4	41	2,918	子供の火遊び
昭和59年	赤平・住友地区	衣料品店		1	12	461	57,163	不明
〃	茂尻・平岸地区	工場				108	8,907	薬品の混触
昭和60年	茂尻・平岸地区	その他	1				0	放火
昭和61年	赤平・住友地区	共同住宅		1		378	29,728	放火
〃	赤平・住友地区	共同住宅		2	3	1戸全壊	推定 3,500	LPG放出
〃	文京・幌岡地区	その他	1				6	放火
昭和62年	文京・幌岡地区	工場				572	62,549	不明
〃	赤平・住友地区	共同住宅		5	17	5戸破損 42	4,075	LPG放出
平成元年	赤平・住友地区	工場				132	30,298	不明
平成2年	文京・幌岡地区	納屋				126	2,091	落雷
平成3年	赤平・住友地区	工場		2		347	13,922	漏洩したアセトンに引火
平成4年	茂尻・平岸地区	その他	1	1	1	130	5,102	放火
平成5年	赤平・住友地区	工場				2,344	903,844	繊維製品の自然発火
〃	赤平・住友地区	倉庫	1		4	172	21,807	たばこの不始末
平成6年	文京・幌岡地区	倉庫				1,130	9,304	不明
平成7年	文京・幌岡地区	工場		1		529	522,341	不明
平成8年	赤平・住友地区	住宅	1		1	55	3,287	不明
平成9年	赤平・住友地区	住宅	1	1	6	40	4,330	たばこの不始末
平成16年	赤平・住友地区	飲食店				192	49,640	煙突・煙道
〃	文京・幌岡地区	共同住宅	1		1	46	7,694	たばこの不始末
平成17年	文京・幌岡地区	共同住宅	1	1	6	60	1,000	不明
〃	茂尻・平岸地区	その他	1					不明

(死者1名、負傷者5名、罹災人員30名、焼損面積1,000m²、損害額3,000万円以上、その他特異な原因によるものを登載)

消 防 活 動



出 動 状 況

(1月～12月)

区 分 出動種別		件 数	出 動 人 員			出 動 台 数			放 水 車 両	放 水 量 m³	ホ ー ス 本 数	使 用 水 利 数
			消 防 職 員	消 防 団 員	計	消 防 本 部 署	消 防 団	計				
火災	建 物	4	109	92	201	24	6	30	6	340.0	93	5
	車 両	1	22		22	4		4	1	3.0	4	
	林 野											
	その他	1	18		18	4		4	1	6.0	3	
風 水 害												
救 助 活 動		5	68		68	19		19				
誤 報 ・ 虚 報												
捜 索		3	59		59	11		11				
警 戒												
調 査		43	79		79	45		45				
そ の 他		44	292		292	74		74	4	6.0	7	
合 計		101	647	92	739	181	6	187	12	355.0	107	5

月別出動状況

(単位：件)

月 別 出動種別		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合 計
火災	建 物			1	1	2								4
	車 両							1						1
	林 野													
	その他					1								1
風 水 害														
救 助 活 動		1						1	1		2			5
誤 報 ・ 虚 報														
捜 索							1	1	1					3
警 戒														
調 査		2	5	5	1	11	1	4	1	1	3	8	1	43
そ の 他			3	5	2	6	8	8	3	3	3		3	44
合 計		3	8	11	4	20	10	15	6	4	8	8	4	101

過去5年間の出動状況

(1月～12月)

項 目 別	年 別	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平 均
出 動 件 数		67	72	71	136	101	89.40
出 動 台 数		160	162	162	216	187	177.40
出 動 人 員	職 員	172	661	731	839	647	610.00
	団 員	154	91	32	111	92	96.00
出 動 件 数	日 平 均	0.18	0.20	0.19	0.37	0.28	0.24
	月 平 均	5.58	6.00	5.92	11.33	8.42	7.45
月 平 均	出 動 台 数	13.33	13.50	13.50	18.00	15.58	14.78
	出 動 人 員	27.17	62.67	63.58	79.17	61.58	58.83

事故種別発生場所別救助出動状況

(1月～12月)

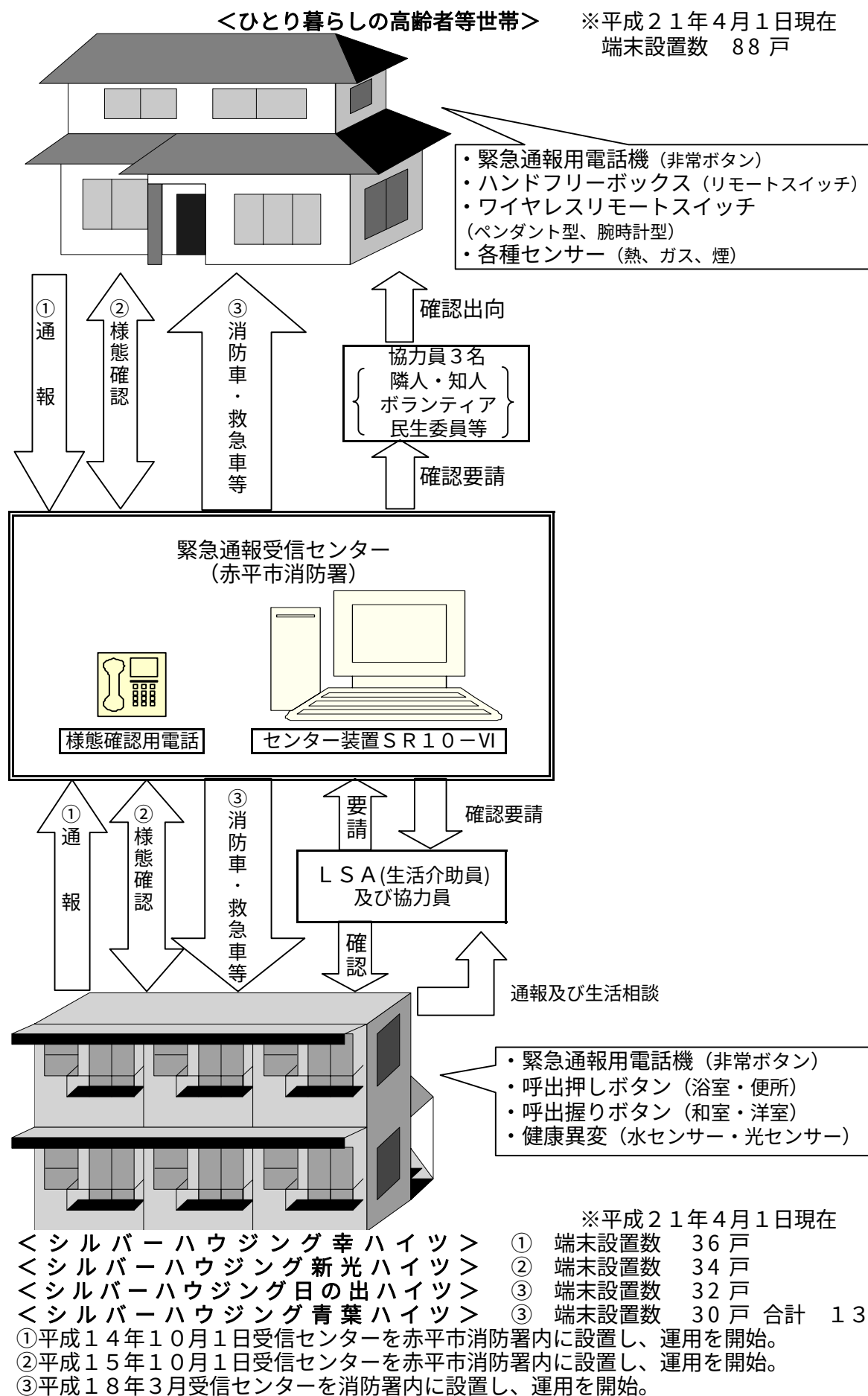
事故種別 発生場所			火 建 物	災 建 物 以 外	交 通 事 故	水 難 事 故	自 然 災 害 事 故	機 械 事 故 災 害	建 物 事 故 災 害	ガ ス ・ 酸 欠 事 故	爆 発 ・ 破 裂 事 故	そ の 他	合 計
屋 内	住 居												
	そ の 他 の 屋 内							1					1
屋 外	道 路	高 速 自 動 車 道											
		そ の 他 の 道 路			3								3
	水 面	内 水 面				1							1
		外 水 面											
	山 岳												
地 所	そ の 他												
要 救 助 者 数					3	1		1					5
出 動 人 員					34	20		14					68
出 動 件 数					3	1		1					5

事故種別月別救助出動件数

事故種別 月 別	火 建 物	災 建 物 以 外	交 通 事 故	水 難 事 故	自 然 災 害 事 故	機 械 事 故 災 害	建 物 事 故 災 害	ガ ス ・ 酸 欠 事 故	爆 発 ・ 破 裂 事 故	そ の 他	要 救 助 者 数	出 動 人 員	出 動 件 数
1月			1								1	14	1
2月													
3月													
4月													
5月													
6月													
7月				1							1	20	1
8月						1					1	14	1
9月													
10月			2								2	20	2
11月													
12月													
合 計			3	1		1					5	68	5

赤平市家庭用緊急通報システム及びシルバーハウジング緊急通報概要図

- ①平成5年7月1日（財）北海道健康づくり財団へ受信業務を委託し、運用を開始。
- ②平成13年10月1日受信センターを赤平市消防署内に設置し、運用を開始。



家庭用緊急通報システム受信状況

(1月～12月)

種 別 \ 月 別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
非 常 ボ タ ン	2	2	2		2		1	4	3	7	3	3	29
ワ イ ヤ レ ス	3				1			1					5
リ モ ー ト						1			1				2
熱 セ ン サ ー													0
煙 セ ン サ ー	2	4	4	3	1	1	2	3	1	2	2	5	30
ガ ス セ ン サ ー			2	1		1	8	6	3		2		23
そ の 他	4			1		2	1		1		1	2	12
合 計	11	6	8	5	4	5	12	14	9	9	8	10	101

家庭用緊急通報システム出動状況

(1月～12月)

区 分 \ 月 別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
救 急 車 出 動		2				1		1	1	1	2	2	10
消 防 車 出 動		1	1					2					4
そ の 他 出 動		1			1	1		1	1				5
合 計	0	4	1	0	1	2	0	4	2	1	2	2	19

シルバーハウジング緊急通報受信状況

(1月～12月)

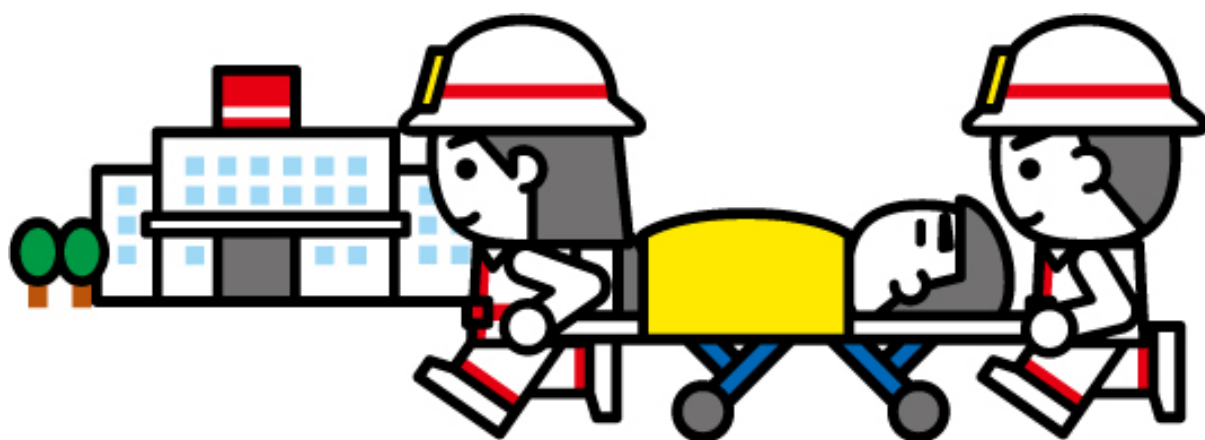
種 別 \ 月 別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
非 常 ボ タ ン 類	3	1	2		1		2	3	1	1	1	4	19
ワ イ ヤ レ ス	2	2	3	3	3	4	4	1	1	1	6	1	31
熱 セ ン サ ー			2	1		1							4
水 セ ン サ ー	9	8	1	2	1		4		3	5	1	5	39
光 セ ン サ ー		1	1	1	3	5	9	3	2			2	27
そ の 他			2			1			1	2	1		7
合 計	14	12	11	7	8	11	19	7	8	9	9	12	127

シルバーハウジング緊急通報出動状況

(1月～12月)

区 分 \ 月 別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
救 急 車 出 動	1	2	1	2	2		2	1		1	1	1	14
消 防 車 出 動													0
そ の 他 出 動			1			2	3						6
合 計	1	2	2	2	2	2	5	1	0	1	1	1	20

救急統計



事故種別月別救急出場件数

(1月～12月)

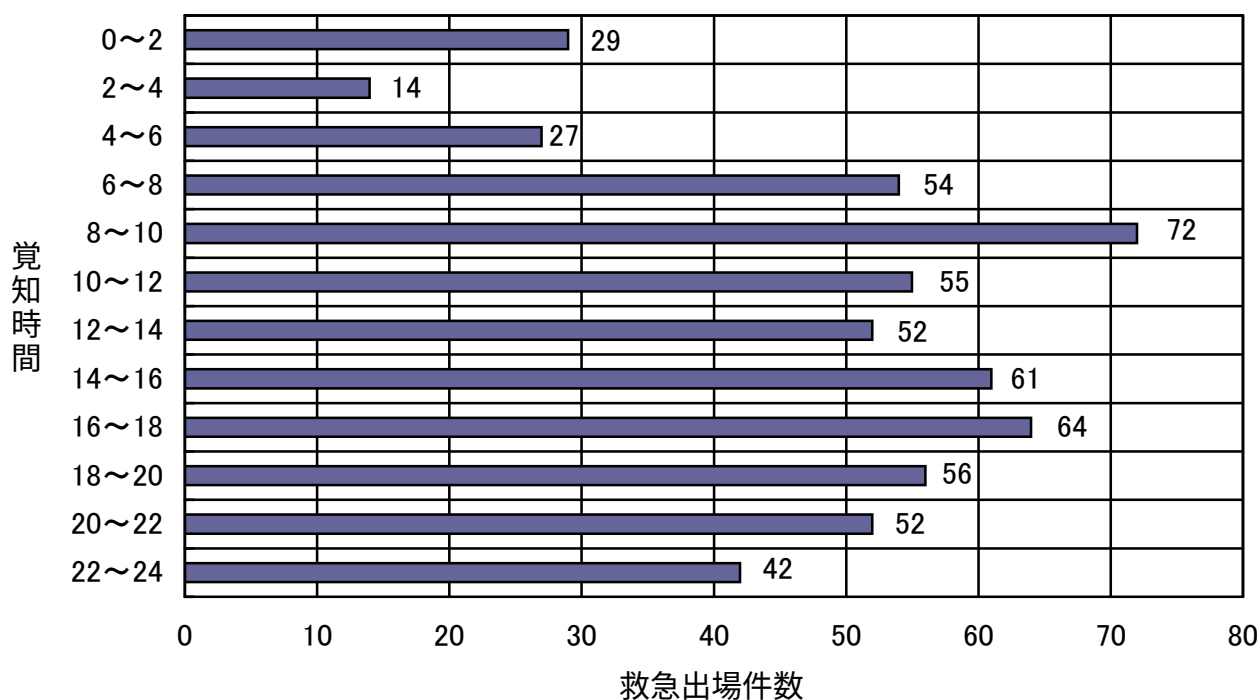
区分 月別	火 災	自然 災害	水 難	交 通	労働 災害	運動 競技	一般 負傷	加 害	自 損 行為	急 病	そ の 他				出 場 件 数	搬 送 人 員 数	不 搬 送 件 数
											転 院 搬 送	医 師 搬 送	資 材 搬 送	そ の 他			
1月				2	1		6		3	40	4			1	57	55	3
2月				2		1	9		1	36	7			5	61	54	7
3月	1			1			8		4	28	3			1	46	44	3
4月	1			2			6		3	30	4			3	49	43	6
5月				2		1	6		1	27	2			3	42	36	6
6月				1			5	1	1	30	2				40	40	
7月				1			3		1	34	4			5	48	41	7
8月				3	1		6		2	31	5			4	52	47	5
9月				2			6		2	22	3			2	37	33	4
10月				4		1	8		3	25	5			1	47	45	3
11月				2			6	1	2	37	6			2	56	50	6
12月				1			11		1	24	5			1	43	41	2
合計	2			23	2	3	80	2	24	364	50			28	578	529	52

管外搬送出場件数

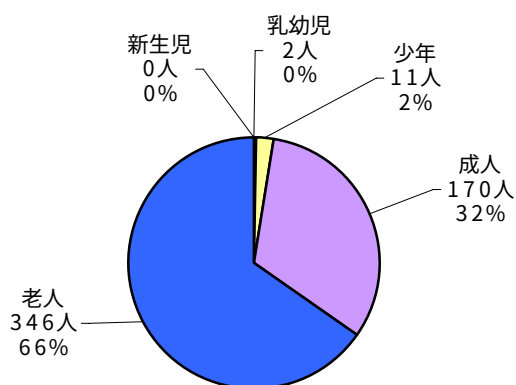
(1月～12月)

病 院 所 在 地		転院搬送	転 送	直接管外搬送	合 計
1	滝 川 市	14		20	34
2	砂 川 市	35	6	33	74
3	芦 別 市			1	1
合 計		49	6	54	109

時間別救急出場件数

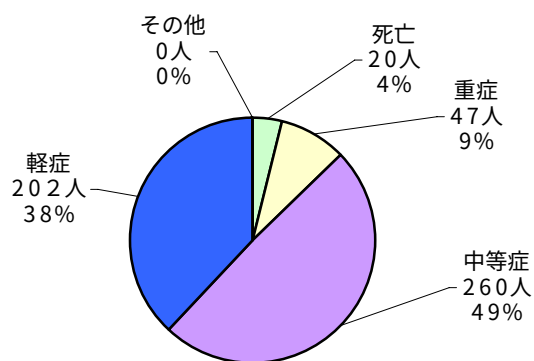


年齢区分別搬送人員数



□新生児 □乳幼児 □少年 □成人 □老人

傷病程度別搬送人員数



□死亡 □重症 □中等症 □軽症 □その他

(注) 年齢区分の分類

新生児：生後29日未満

乳幼児：生後29日以上満7歳未満

少年：満7歳以上満18歳未満

成人：満18歳以上満65歳未満

老人：満65歳以上

(注) 傷病程度の分類

死亡：初診時において死亡が確認

重症：3週間以上入院加療を要するもの

中等症：重症又は軽症以外

軽症：入院加療を必要としないもの

その他：医師の診断がない又は搬送先がその他の場所へ搬送したもの

過去10年間の救急出場件数

(1月～12月)

区分 年別	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他				出場件数	搬送人員数	不搬送件数
											転院搬送	医師搬送	資材搬送	その他			
11年				31	7	10	68	1	11	317	47			12	504	488	32
12年				27	9	3	73	5	11	352	55			20	555	539	32
13年	3			26	7	7	82	1	8	344	52	1		26	557	536	28
14年				32	7	9	71	1	15	395	50	2	1	22	605	585	24
15年	2			34	6		68	7	8	381	58	1		21	586	568	25
16年	2	1		26	10	2	78	6	10	424	61	1		27	648	628	34
17年	1		1	23	6		81	3	16	398	63			30	622	593	41
18年			1	26	8	1	77	1	19	404	76			38	651	613	44
19年				16	8	1	79	2	13	409	69			26	623	581	44
20年	2			23	2	3	80	2	24	364	50			28	578	529	52

気 象 統 計

(参 考 記 録)



平成20年各別気象参考記録

(24時間記録)

種 別		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合 (平 均)	最 高 最 低 最 多
天 (午前9時) 候	晴(快晴含む)	7	12	16	11	13	17	16	14	18	15	7	8	154日	18
	曇	11	10	11	16	16	9	11	15	12	14	16	11	152日	16
	雨			4	2	2	4	4	2		2	5	1	26日	5
	雪	13	7		1							2	11	34日	13
風 向 ・ 風 速	最 多 風 向	東北東	東北東	東北東	東北東	東北東	東北東	東北東	東北東	東北東	東北東	東北東	東北東		東北東
	最大瞬間風速	11.0	10.5	11.0	17.5	13.5	11.5	9.0	9.5	12.5	14.0	17.0	13.5		17.5m/s
	最大瞬間風向	東北東	東北東	東北東	南	北	南	東北東	南	東北東	東北東	東北東	東北東		南
	最 大 風 速	5.4	5.6	6.4	5.7	6.6	4.7	5.1	4.9	6.7	7.0	6.5	7.6		7.6m/s
	平 均 風 速	1.7	1.8	1.6	1.9	1.8	1.6	1.5	1.6	1.7	1.6	1.8	1.7	(1.7m/s)	
気 温	最 高 気 温	2	5	14	26	26	29	33	31	31	22	14	11		33℃
	最 低 気 温	-22	-22	-11	-4	-3	7	12	10	5	1	-11	-14		-22℃
	平 均 気 温	-7.3	-6.1	1.3	7.8	11.7	16.9	21.2	20.2	17.2	10.4	1.8	-1.6	(7.8℃)	
	真 冬 日 数	21	13									1	10	45日	
	真 夏 日 数							4	3	3				10日	
湿 度	最小実効湿度	83	78	77	64	68	76	78	78	74	77	85	79		64%
	最 小 湿 度	53	42	29	27	34	32	39	36	35	33	45	54		27%
	平 均 湿 度	89	86	82	71	79	80	88	85	83	84	89	92	84%	
気 圧	平 均 気 圧	1,009	1,007	1,010	1,009	1,006	1,005	1,002	1,003	1,003	1,010	1,008	1,008	(1,007hPa)	
降 雪	降 雪 量	285	305	8								148	332	1,078cm	
	降 雪 日 数	27	17	2								10	21	77日	
積 雪	最 大 積 雪	43.0	85.0	50.0								30.0	32.0		85cm
降 雨	降 雨 量			35.0	14.0	68.5	36.0	87.0	71.0	71.0	109.0	81.0	35.0	607.5mm	
	降 雨 日 数			4	6	10	9	9	8	10	14	15	6	91日	
降 水	水 量	6.0	0.5	36.5	14.0	68.5	36.0	87.0	71.0	71.0	109.0	120.5	114.5	734.5mm	

冬期間における降雪量

平成19年10月～平成20年4月

項 目	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	合 計
降 雪 量		191	254	285	305	8		1,043 cm

過去 10 年間の気象参考記録

年 別 種 別	平成 11 年	平成 12 年	平成 13 年	平成 14 年	平成 15 年	平成 16 年	平成 17 年	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年
最 多 風 向	東北東	東北東	東北東	東北東	東北東	東北東	東北東	東北東	東北東	東北東
最 大 風 速	8.3	10.9	8.0	8.6	9.0	9.0	14.0	8.3	8.2	7.6
平 均 風 速	1.8	1.7	1.8	1.6	1.8	1.9	1.7	1.8	1.8	1.7
最 高 気 温 °C	36	35	30	31	31	33	32	34	36	33
最 低 気 温 °C	-19	-23	-22	-20	-23	-19	-20	-18	-16	-22
平 均 気 温 °C	7.8	7.5	6.3	7.3	7.0	7.7	6.9	7.4	7.9	7.8
最 大 湿 度 %	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
最 小 湿 度 %	22	29	25	19	18	23	29	19	24	27
平 均 湿 度 %	85	87	86	84	83	83	85	85	83	84
最小実効湿度%	57	65	57	59	66	66	60.0	65	68	64
降 雨 量 mm	786.5	921.0	880.5	598.0	581.0	664.0	627.0	789.0	731.5	607.5
降 水 量 mm	1,256.5	1,297.0	1,120.5	929.5	742.5	1,114.5	1,042.5	1,221.5	901.0	734.5
降 雪 量 cm	1,134.0	1,099.0	868.0	892.5	575.0	1,121.0	1,357.0	1,524.0	1,244.0	1,078.0

※ 平成 13 年の気温及び湿度については、機器故障のため 4 月分のデータを含まない。

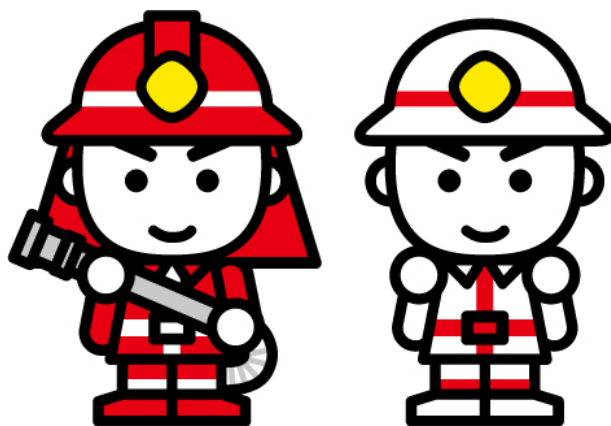
※ 降雪観測は 1 時間毎の観測。ただし、平成 16 年のみ 6 時間毎の観測。

「消えるまで

ゆっくり火の元

にらめっ子」

平成21年度「全国統一防火標語」



消太

全国消防イメージキャラクター「消太」は、より一層「親しまれる消防」をめざして、消防防災に係るさまざまな広報活動に使用することを目的に自治体消防制度60周年を記念して作成した、消防共通のイメージキャラクターです。